

我自
刊我

武江年表

上

和	書	門	類
三	六	四	〇
二	四	二	〇
一	八	一	〇
二	冊	架	函

90
和

內	閣	文	庫
和	書	三	六
〇	類	四	〇
二	冊	四	〇
六	架	一	〇

(一冊)

內閣文庫	
番號	和 36440
冊數	2 (1)
函號	141 89

141-89



181
98

我自刊我書

武江年表

古書保存書屋



三墳五典八索九邱不限古今中外配錄撰
集草紙物語不同雅俗兼小大探奇開秘綴斷
拾零欲以久保于世永存于家庶幾平有補於
昭代文化之萬一焉雖然排字易謬校讎精
魯魚亥豕訪同人訂之大本東京橋區西
紺屋坊第九號地基我自刊我書屋主入謹識

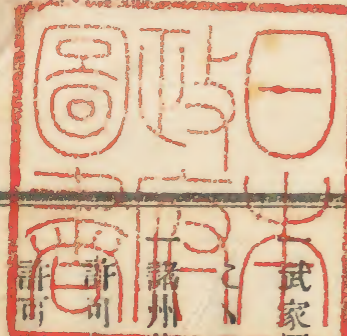
我書屋主入謹識

我書屋主入謹識

附言

前輯八卷を梓行せしより嘉永以降の風俗世態も見聞に隨ひ厥綱要を録しつれど
世營倥傯の際綜緝淨書の暇なくして年所を経たりあかるに此を適閑を得るが
故にかの草稿を採撫し同好の輩に搜訪して毎條其實を訂し記しつけたりされど
載る所街談衢話に據るところの俗事のみ將た見聞博からされば搜討意の如くな
らざり又明治以來の事さの諸般の政度土地の沿革神宇梵刹閭閻の移轉其他の
事件多端にして草稿回回となり輒く前後を分ちて編纂の成る所あられさればま
づ其一端を擧て梓に行へり然るに近年新聞志と目するもの數種を刊行して世に
弘るの輩ありて世上の雜事異聞奇談風俗の淑慝をさへあらわして連綿せる事世
の知る所なれば彼版本を得て厥梗概を知るに足るべし

武家屋敷の沿革又市井の號の明治以來變化するもの多く新聞の町家も尠からず
ある所明治已前の頃の名にして今と異なるもの有と知るべし
諸州他縣神佛の啓龕の事なして丁丑より以前開帳ある頃は大抵六十日を期として
許司あれども末に至り十日或は十五日の延期あり一々誌ん煩はしければ最初
許司の日數而已擧たり



武家屋敷の沿革又市井の號の明治以來變化するもの多く新聞の町家も尠からず

一頒曆畧注岡部河内守一徳に子の刻ハ明日に跨りて四刻迄を今夜と一五刻より後八刻迄と明日の日とすとあり彼是混雜する故新曆頒行以前の俗例に従ひ幾日夜子の上刻下刻とあるせり

一近年世上の風俗の變化等の事に付て騷人韻士の文藻も數多これあるべけれ俗間に行ふべき冊子なればこゝに誌さず

明治年著雍攝提格一月良辰

東京市井散人七十五翁
齋藤幸成誌

武江年表卷之九

齋藤幸成輯

嘉永二年己酉 四月間

- 正月廿二日夜芝神明町より出火して神明宮恙なし
神主宅焼る宇田川町濱松町中門前等類焼に及へり○同廿四日申刻八官町より出火太左衛門町佐兵衛町山王町丸屋町八官町南大坂町芝口北紺屋町等類焼せり
- 二月八日儒者朝川善庵卒名鼎號學古塾稱鼎
小梅常泉寺よ葬す
- 三月六日より獨樂廻一竹澤藤治改梅升其子万次郎改藤次と、も一兩國橋西詰に大ある假家ををけらひ獨樂よ幻戲エゴの曲を交へ先年一倍したる奇巧をなして看せ物とす見物の諸人群集をな一九月の末に至て停む○三月幕府下總國小金原御鹿狩十七日夜子刻御發興十八日夜亥刻頃還御○新大橋御掛替あり○同月廿日より六十日の間赤坂一ツ木威徳寺不動尊開帳境内よ芝居見
せ物等出る○同廿五日より十五日の間龜戸天満宮境内法性坊社開帳○同廿九日より三十日の間西葛西領花又村大鳥大明神開帳大ある竹把三平二満假面
其餘色々の奉納物あり同所矢納辨才天開帳
- 四月十二日より三十日の間本所回向院に於て出羽國湯殿山黄金堂お竹大日如來

開帳 執事其玄坊竹の蔵膝庖厨の板流し等此前の開帳の時
 前北齋爲一卒 九十歳あり淺草八軒寺町誓願寺に葬す辭世句「人魂でゆくささん
 トや夏の原」翁名の辰政といふ始勝川春章が學ひ春朝と號す後倭
 屋宗理と學ひて二世の宗理とある一號群馬亭といへり自ら一化を志して爲飾
 北齋と改む夙齡の頃草双紙の畫作ありて時太郎可候とまゐり文化の末より戲
 斗又爲一と號す寛政の頃より嘉永の今に至りて刻板の密書讀本のさゝるく三
 くと云とを知らず北齋漫畫其時の粉本世に行れ九句及ひて筆力衰るとかく三
 都其外門人數ふるま違ひら
 娘榮女も又板本多く畫り

○同月淺草源空寺にて俠客幡隨院長兵衛が二百年法事執行あり○同廿日より廿四
 日まで牛込原町幸國寺祖師開帳身延山靈寶を拜せしむ

○閏四月より五月まで霖雨冷氣を催せり

○五月十九日大風雨家を損ふ○深川靈岸寺本所彌勒寺本堂再建成就○五月高田
 穴八幡宮樓門再建成

○六月十七日十八日大風雨○廿二日雷鳴夜五時より深夜まで止時なく數ヶ所へ墜
 ○七月十九日より六十日の間深川淨心寺にて身延山奥院 孝樂院 祖師七面明神開帳 群集

○同月欠詩人菊地五山卒 名桐孫字無弦號娛庵 小釣舍稱左太夫 ○神田相生町向參前舍心學
 師備後の人中村徳水出席聽人多し○同月大雨度々降り常陸下總洪水溢溢一人家
 溺る○投扇の戲行はる大坂よりはやり來れり 投扇の戲行はる大坂よりはやり來れり
 の人工夫しけるとう源氏物語五十

餘帖の題號よりて其名目を定め甲乙を争ふ ○今年より四谷新宿後正受院安置
 寛政の頃また天保中も江戸へ行れまあり ○今年より四谷新宿後正受院安置
 此奪衣婆の像へ諸願をのくる事行れ日毎お參詣群集し百度參等をす 此奪衣婆の像へ諸願をのくる事行れ日毎お參詣群集し百度參等をす
 中の病を守
 たまふとて信心の くれお依て賣僧とも種々奇怪の妄説を云ふらじ香花と慕ると
 者もありまあり 甚しかりけれ程なく露顯し官府の御所置に依ておのづから群集の衰へたり
 又此頃愛宕下の吟窓院へだつえ心の巨像を安置せ坐
 像よまて一丈餘もあるへし古筆了作の寄附といふ

○八月廿四日夜子中刻神田松枝町蠟燭屋治兵衛方より出火して松下町代地久右衛
 門町代地横山町代地岩元町道有屋敷小傳馬上町元柳原六丁目大和町代地乃邊龜
 井町小傳馬町旅籠町 大丸の 大傳馬町二丁目 堀留町 通油町一丁目田所町長谷川町
 新乗物町新材木町岩代町塚町葺屋町堀江六間町元大坂町甚左衛門町小網町一丁
 目横町まで明方鎮る町數三十四町長八町幅平均して二丁餘乃類焼なり 半屋敷
 と銀座
 かりし○同廿五日豊海橋西新川通出火三丁を焼る

○九月富士講の行人を禁せしむ 身祿派清康派等の流派ありこの内俗人の身として
 病氣平愈の加持祈禱を行ひ奇怪の説等ひひ觸しけ
 る故あ 高柴三雄撰書又實曆より明和安永迄お狐狂軒瀬名貞雄
 君のえらはれし割繪圖の体裁よからひて訂正し方域を
 るへし○江戸割繪圖梓行 分ちて一枚つゝ次第お梓行きたるものおまて三十四枚を全部とすこれよ○淺草
 續て景山致恭といへる人あらしせるものも又梓行して世の便利とせり
 寺荒澤不動堂乃相殿よりり客人權現をあらたし祠を營て安置 青樓の輩おと
 參詣まて貨殖

を祈る是の客人の文字よのみよりて詣るあるへし然とも客人の神の山王廿一社の内よ去て女神ありされの娼家ありぬ神ありと南畝翁の假名世説よもいへりこの類世ふ多し紺播の家々よて愛染明王を祭るの染の一字ふより或の人丸の鎮火の神あり垣の許よて火留るといふ縁語ありといふも又此類あり

○十月日黒茶屋町酒肆茶店の園中菊の花を以て人物其外の造物出来て行客乃足を停むまぬ牛御前境内長命寺境内ふも菊の造も乃花壇等出来たり○同晦日暮時より雨降出夜子刻より大風雷雨鳴り

○十一月三座歌舞妓芝居役者入替りなく翌年正月よなる茶屋飾物の例の如し○同七日己下刻麴町平河町三丁目より出火をて同町二丁目迄焼る○同廿三日暮時過下谷南大門町より出火長者町練塀小路武家地類焼せり○同西の日淺草田甫鷺明神西の市の日なれと別當長國寺よ此程事ありて開門を諸人門外より拜を商人の通りの通り出る

○十二月九日夜五時過富澤町より出火長谷川町難波町高砂町往吉町新和泉町類焼○同廿三日曉千住宿三丁目より出火旅舎多く焼亡せり○淨瑠璃語三世富本豊前太夫豊前様と受領を文久のころより○近年花菖蒲を愛れる人多く葛飾郡堀切村わけて多し仲夏の頃諸人遊觀す小村井村里正孫右衛門の園中梅樹をた花菖蒲其餘四時乃草木を栽て盛の頃諸人の縦觀をまつ寺島村里正三七ヶ園中も又花菖

蒲其餘の草木多し本所四目植木屋文藏芍薬の數種をやしなふ開花のころ諸人遊賞せり○種痘の事近頃より弘りし事なれど此頃牛痘をうゆる事京師より行れ蘭學の醫師專ト是を用ふる事盛ふ行はる深川海邊大工町桑田立齋此○宇治紫文齋淨瑠璃一中節より出一派をなして行ゆる○近年烟管のラウ竹短さを好み惣さけ五寸以下なり明治以來の西洋の風を學び○此頃四谷内藤新宿の旅舎豊倉屋何某同所北裏通北側の谷とあらし梅樹數株を栽また中央池と堀り三方へ心匠ものせ乃亭をめぐり設け料理を售む春秋亭と號し遊觀の所とすされと數年を經すて閉店す

嘉永三年庚戌

○正月元日申刻より日蝕三分半○同七日昨夜中より雪降出十年ぶりよて積る○龜戸天満宮追儺ついでの神事毎年節分乃夜執行むを今年より正月六日よ改む○同中旬より廣尾古川の邊に蛙合戦あり

○二月朔日亥下刻下谷金杉町屋焼亡○三日より六十日間上野清水堂觀世音開帳○同五日晴天彼岸の乾大風土砂を飛す己刻麴町五丁目續き岩城升屋比後ある高田放生寺乃拜借地に在る見守番人の家屋炭團より出火して烟西東南に被り一時は焼

大町火

むろがり黒烟天を焦し同町五丁目より壹丁目まで集町平川町山本町谷町邊又武家地多く焼け定火消御役屋敷京極侯明石侯三宅侯大村侯鳥居侯山王門前町屋内山内藤侯九鬼侯丹羽侯柳澤侯より外櫻田へ飛て京極侯木下侯相良侯御勘定奉行御役屋敷加藤侯朽木侯兼房町和泉町備前町伏見町鍛冶町乃邊愛宕山本社二王門額堂末社別當所未寺同所麓東西大小名やこき一圓真福寺天徳寺同門前青松寺へ焼込増上寺の支院數字焼け神神社濱の大久保侯より金杉橋松平因州侯下屋敷其外柴井町宇田川町神明町三島町七軒町中門前片門前濱松町新網町湊町西應寺町同朋町濱町金杉壹丁目より五丁目邊の町屋一圓圓珠寺正傳寺安樂寺徳覺寺其外此邊の寺院類焼して芝橋際迄濱手に至り夜戌下刻漸し鎮火せり會津侯仙臺侯新錢座へ殘る諸侯の藩邸五十二宇小名九十二宇寺院十九宇の餘町數五十七町あり長凡三十三町餘幅廣狹平均して四町乃餘と聞り焼死怪我人數ふへりらすとそ○同十三日昏過ぎ星月を貫く○同廿二日曉七時芝森元町續武家地醫師服部某の宅より出火飯倉一丁目の邊焼込明方鎮る

○三月三日より淺草寺町正覺寺に於て足立郡新曾妙願寺祖師開帳巨像あり○同四日よ

り淺草寺觀世音開帳參詣群集す○同九日より淺草寺町本藏寺に於て武州小金領八木本妙寺祖師開帳○同廿日より三十日の間青山善光寺一光三尊の彌陀如來開帳境内みせ物等出る○同日より向兩國に於て奥州二本松百々目木村産七歳の男子惣身お鱗を生したるを看せ物とを○俳優市川海老藏號白騎奢み長しなる故を以て天保の末追放せられし今年大赦し遇て二月歸郷し三月七日より再び芝居へ出る○四月十五日午中刻千住宿二丁目より出火五丁目まで焼る去年焼残りし所あり○同十七日より七日の間十三代目中村勘三郎代替り壽狂言興行○同十七日夜北品川東海寺山上牛頭天王社並神樂殿とも焼亡定例神樂の夜は過ちたる御再建あり○五月八日暮六時過本材木町一丁目より出火青物町左内町音羽町新右衛門町の邊町數十五町長三町十間餘幅一町半程焼込明方み至りて鎮る○六月朔日より三十日の間本所御船藏前東大寺勸進所より南都二月堂觀世音開帳○同六日畫人宋紫崗卒七十歳あり稱楠本雪溪紫石は末○六月中旬より曇天多く冷氣よて病者多し○七月より御塹邊とよまる○七月より兩國橋手前より丹後國加佐郡大江村の産惣身は黒毛生れたる女兒名を熊小僧と名づけ見世物とす其後所々みて見せけるが見物ぞくあかりしか

問屋名
目再興

米價騰
貴

○三月朔日より六十日の間下総國駒木村成顯寺諏訪明神淺草幸龍寺に於て開帳日先社師開眼の像なり ○同三日より四月十四日まで深川淺江摩利支天開帳といふ ○三月菱垣廻船積仲間千九百九十五株と唱へ諸商賣組合問屋并仲買等乃名目再興せらる天保十二年停止ありしを今年再興せられたり ○三月吉原角町万字屋茂吉江戸中へ遊女大安賣の報帖を配るこまなならひし家二軒あり ○米價去年より續て貴く并風邪流行をよつて町會所に於て市中貧困のものへ御救米賑給あり ○此春より雨をさく降り夏の末より秋へかけて災威殊盛にして疫病行たる七月の頃へ東海道大井川砂礫をけて涉るべく數日川とめるとありしとぞ ○諸人編蒲笠をかひる事行たる間もなく廢せたり ○春より浪花の幫間市丸新玉なといふも乃江戸の戯作者十返舎一九が編の道中膝栗毛を趣向とし世よいふ茶番狂言の脚色も滑稽を旨とし兩國橋西詰にて興行を見物多し其後所々へ出る

○四月朔日より六十日の間茅場町藥師如來開帳參詣多し實物の内は豊太問の馬印千なり瓢の一を見する木箔剥落せり 境内芝居興行あり ○同三日北大風未刻四谷鹽町二丁目續北寺町邊武家地より出火鹽町傳馬町四谷御門外迄其外組屋敷寺院多く類焼あり泰宗寺も長

九町三十間餘幅平均をて三町廿間をまゝ同日未刻過内藤新宿の鰻屋より出火 兼舍大方焼亡せり長六町餘幅平均をて四十五間程かり ○同十一日朝荏原郡大井村御秋町の海濱へ小鯨一喉よる長三間餘頭長三尺八寸餘かり死て後あり淺草寺少し又深川まで得たるメナメリといふ九尺計の魚を鯨と號し兩國橋畔へて見せ物とす ○同廿日より六十日の間東本願寺地中徳本寺に於て三州勝鬘皇寺聖徳太子像開帳土佐光信筆太子傳繪卷四幅吳道子佛畫其小靈寶多し ○夏より兩國橋西詰曲馬見世物繁昌す

○五月五日より六十日の間回向院境内に於て豆州八丈島爲朝明神像開帳境内へ見出る雜物細工といふ見せ物出る其内は二丈餘の大黒天あり腹の内より壽老人出て躍るとあり ○同日儒師大黒梅陰卒五十五歳 興安寺に葬す梅陰稱を龜二郎といふ天明中北亞米利加魯西亞等へ漂流きて寛政中歸朝せし伊勢白子の船頭幸太夫が子と父没して後市店に奉公きて其主家の衰へし時忠義あり後九段坂上小宮山侯の藩にあて儒學教授をもて業とせり大黒を名利をいとひて世人と交らず故に名をだし知る人まをあり死後事跡をまゐりして牛島長命寺へ碑を立たり

○六月廿一日より三十日乃間小日向大日妙足院大日如來開帳日くれ方より日々參詣の人多し

○七月十七日伎橋場食舖川口某白火にて焼亡間もかく再營をて商をばむ ○同廿日夜雨大雷所々へ墮る凡三十餘所といふ其以來晴天廿五日つゞき八月十六日又至りて雨ふる ○同廿八日より六十日の間甲州山梨郡初鹿野村天目山栖雲寺毘須鞆摩天作摩利支天勝軍

不動尊回向院にて開帳武田家の遺物 等靈寶多し ○秋より浪若町一丁目中村勘三郎が芝居する中古下総國佐倉にて事ありと佐倉惣五郎が事跡を狂言に取組興行俳優市川小團次この役をつとめる柳亭翁が作の田舎源氏といふ稗史をつかり合せたり 見物の貴賤山をなす佐倉の村民も此噂をき、競ふて江戸より來り此芝居を見物せり江戸よりも芝居掛りの者各報賽として彼地の靈社へ詣りて香火をさしげしとぞ

○九月十七日夜子中刻北大風淺草門跡添地長泉寺より出火同寺中四字并報恩寺本堂其外焼亡一其邊に残り飛火にて阿部川町一圓新堀へ出淨土の龍寶寺等焼亡を長三町四十間幅平均四十餘間といふ○巢鴨染井の里造り菊今年ハ甚少

○十月十八日晴天淺草寺輪藏再建新始の式あり十方より勸化して建る所あり今日見物多し ○十月櫻花所々咲く○鯉多く釣れる○兩國橋西詰ハ虎乃見せものとして出る是ハ豊後國より生捕り一猫の大なるものなりといふ

○十一月より不忍池辨才天の境内へ經堂を建る翌年閏二月成就せり○同六日畫人大西椿年卒稱竹之助字大壽號楚南運霞堂淺草寺地中金剛院に葬す

○十二月二日明六時前神田橋内松平越州侯屋敷火事○同六日曉八時淺草御藏前大護院門前町屋より出火八幡宮に残り三好町黒船町等河岸まで焼る凡そ一町○同餘焼失

十四日曉九時半小傳馬町二丁目葛籠屋より出火して通旅籠町田所町角まで焼る大丸屋に殘る ○同廿日夜子刻過馬場先御門外松平因州侯屋敷より出火土州侯少々焼亡

松平右京亮殿南町奉行御役屋敷永井侯屋敷等類焼せり ○同廿五日曉九段坂下火事 ○同廿九日丑刻駿河臺甲賀町火事 ○當冬更雨か春へかけ度々火災あり ○元赤坂町肴賣鉄五郎が男金太郎三歳より武鑑を暗記を又新材木町丸屋徳次郎が男藤吉四歳これもよ武鑑を暗記を ○海老いろといふ染物はやり出す

嘉永五年壬子 二月間

○正月四日己刻米澤町三丁目南側の蕎麥屋より出火難波橋乃手前藥研堀埋立地兩國橋手前廣小路の西側横山町三丁目馬喰町四丁目淺草御門の際迄焼亡風もあらざるに燒廣こり黄昏にあり鎮る長二町四十間幅平均五十間の餘なり ○同六日暮時麴町山元町より出火麴町四丁目五丁目平河町焼亡岩城升屋の向側迄焼る長二町程あり ○同八日曉丑刻過光り物乾より巽へ飛ぶ ○去年冬より更雨降らば火災度々及ふよつて正月十五日より火の元守方嚴重の御沙汰あり町中番屋人數を募りて晝夜に怠らば時々刻々地所毎に路次内を見廻り天水桶竹階子差股龍吐水水鋏炮水桶水籠目印の幟挑灯等救火の要具を整理して飾り置り又大風の時の

拍子木を打て相圖と一貨食舖河漏肆豆腐屋錢湯其外大火を焚く家ハ連日其活業なりはひを停むへき旨を示さる 拍子木ハ寢られぬ風乃頭痛ハハむへふり出ハそくすりなりとる

○二月十九日千駄木七面坂下紫泉亭植木屋宇平次と梅園をひらく又四時の花を栽いへる舊家あり

盆種乃艸木を育て崖さかのそとリ茶亭を設け眺望よ一諸人遊觀の所とありて日毎

一群集をるもの多一○今年管神九百五十年の御忌辰よ一諸所乃天満宮開帳あり

二月十五日より三月廿七日迄龜戸天満宮開帳○同廿五日より六十日の間麴町平

管神九百五十年

河天満宮御眞筆の御影開帳○閏二月十五日よ一五十日の間小石川牛天神開帳

○閏二月朔日より六十日の間三田淨閑寺魚籃觀世音開帳○同七日八日龜戸御嶽社

一於て管神御眞筆等高貴乃御筆御神號御神影其外名家名筆の御神影神號等諸家

の藏せるもの數幅と借得て拜せし催主糸川尙章板橋定時補助山名行雅關口定眞といふ人あり○同十六日よ

り六十日の間淺草寺町本藏寺に於て上総國山邊郡家の子村妙宣寺祖師中老日秀上人作

開帳あり同寺二王尊の内一軀を拜せし○同廿八日未刻下総眞間の臺總享寺所化

寮より失火して本堂僧坊燒亡せり山門そりりハ残りたり○彼岸の頃迄春寒去ら

そ雪度々降る○同下旬より淺草寺奥山ハ鯨細工看せ物出鯨の骨を以て長さ十間の鯨その餘の物を造る色々の偶人のはたらきあり招きハ辨才天時政の木偶大蛇を○幼兒の手遊び

一河豚の皮と茶碗の類へ張り竹よて打て音を出ハ事とやり街ハ售ふ

○三月朔日より十五日まで目黒不動尊開帳○同九日より五十日間駒込浩妙寺七面

明神開帳○同十六日夜子下刻北品川宿より出火南風烈一く二町を燒亡す東海寺門

前并旅舎多く燒る○同十九日暮六時より同廿日未中刻まで深川三十三間堂よて大矢數あり

酒井雅樂頭殿の臣鶴田辰五郎廿一歳太子流岡田半九郎門人同藩金澤鉄二郎の

指南と云々總矢數一万四千五本の内通し矢五千三百八十三本ありといふ

○三月霖雨○初音人形と號一木偶の腹を押せハ笛の音ありて啼聲を出ハもの京

より下りて行ハる○春の頃より淺草寺奥山乾ハ隅林の内六千餘坪の所喬木を伐

梅樹數株を栽まぬ四時乃草木をも栽池を堀て趣をかハ所々ハ小亭を設く夏ハ至

り成就一六月より諸人遊觀せし千駄木植木屋六三郎の發起なり○淺草花川戸乃邊ハ住る一老

嫗猫と畜て愛ハけるハ年老て活業もすハまを貧ハして他乃家ハ寄宿して餘年を

送らんとせし時その猫ハ暇を與ハかくハ他家へ趣ハる其夜乃夢中ハかの猫告

てハふ我かたちを造らハめて祭る時ハ福徳自在ならしめんと教ハけれハさめて

後その如くしてまつる夫よりぬつさと得てもとの家ハ住居ハけるよ一他人此噂

を聞て次第ハあの猫の造り物を借てまつるべきよ一といひふらハければ世ハ行

れていくらともあく今戸燒と稱する泥塑の猫を造らハめてこれを貸そかりたる人

嘉永壬子

ハ布團をつくり供物をそあへ神佛の如く崇敬して心願成就乃後金銀其外色々の物をそへて返す其團ハ淺草寺三社權現鳥居の傍ありて此猫と求るもの夥し此事兒女輩といへども心ある人の用ひひまいて丈人の駭くへきあらはといへども此頃の丈夫も竊よの猫をりて祈りけるもこれあるよしなり一々四五年よして此噂止みたり

○四月二日より六十日の間淺草御藏前大護院に於て川口善光寺一光三尊阿彌陀如来開帳○同日より五十日の間淺草寺町正覺寺に於て下総葛飾郡本行徳村正讚寺祖師妙見宮開帳○猿若町二丁目結城孫三郎が操芝居當所へ引移し後不繁昌し付休座町並の家作よなる

○五月朔日より六十日の間本所回向院よて三州矢矧立山光明寺天満宮開帳あるへきとて四月廿四日江戸へ着りたるが故有て開帳を停られ一々一日も開帳なく同月十三日歸國なり江戸着の日本魚講中といへる輩數百人群をかき木魚をかきらし高聲お念佛して送りけるの思はざるの甚しきといふ○同十四日夜九時より八時六分迄月蝕皆既○夏病犬多し○同晦日亥下刻西御丸炎上御靈屋 善よし○同晦日亥下刻本所元町より出火回向院前町屋焼亡せりあわ雪豆 廣兩側の通りまで○猿若町二丁目市村羽左衛門が芝居よて享和の頃青山邊なる鈴木主水やけたり

といふ武士内藤新宿の賤妓白糸と俱し情死せし俗謳に残りしを狂言よとくみ興て行けるが殊乃外繁昌しければ俳優二代目坂東秀佳内藤新宿北裏通成覺寺へ白糸が墳墓を營り

○七月十日曇御先隊の騎士故人淺羽等之助中島流の火術よ名ある人あり今年五十年忌先代三年忌よて今日佃島沖よ於て彼家より出て晝夜相圖烽火調練ありて六百餘をそあつ水陸見物群集是迄ハ熟練の家々年々當所沖よて調練ありけるが當年以來興行よし○同十二日白金村鷲森神明宮の邊よ住て紙を漉て生業とせる男三十餘才二本樓ある万屋といふ吳服屋よ頼れ商物を脊負て他の家へをくらんとしけるが乗燭のころ路次よて盜賊よ出遇ひ白刃を振て威されけるが懷中よありける祐天上人乃自書の六字名號大山不動尊の畫像をよて心中よ祈念しけるが夢中の如くよなりおはらくして心付家よ立歸りて後りの二品を拜するよ名號畫像ともよ刃の跡數り所殘れりや○同廿五日夜柏木成子町出火○同廿日廿一日廿二日大雨千住邊出水三日漉へあり○廿七日夜子刻北品川宿三丁目玉屋佐介といへる旅舎より出火宿内旅舎大抵燒て南品川妙國寺門前の町家よ至る長七町餘幅平均四十間程なり貴船社 殘る○同廿八日より六十日の間下総國中山法華寺奥院祖師像淺草寺町本藏寺よ於て開帳鬼子母神内

拜あり○中の郷瓦町長壽寺よて土中を穿ち金銀雙身の歡喜天の像を得てこれを祭る○夏の頃より神田松枝町ある大工保五郎が畜猫鼠を愛して乳をふくませ我うみ落せし小猫とよも養育す

○八月十日朝五半時より九時頃まで大風雨家屋を破り樹木を折る永代橋へ大船流當りて橋を傷ふ所々怪人あり○同廿五日より六十日の間茅場町薬師境内天満宮開帳○下旬より百日の間麴町平河天満宮境内よて子供芝居興行す

○九月十日曉青山六道の邊植木屋五軒程焼る

○十月雜司谷法明寺會式中境内に蕃椒をもて大ある達摩をつくる

○十一月朔日已刻より日蝕九分餘なり闇夜にあらす往來の時行燈を用る程にあらす○同晦日大名小路

松平能州侯屋敷より出火松平越州侯屋敷類焼及ぶ○三座芝居顔見せ狂言春のぶ茶屋れ飾ものいこれあり

○十二月二日三日の頃いづくより來りけん巢鴨ある加州侯下藩邸の邊より老猪一疋駈出し大路を過り塀牆を越て牛込棚下酒井侯別荘の地へ入りしを藩士某跡足を斬けるより彌猛り狂ひ早稻田ある乞丐人の家に入りその娘閨を徘徊し三味といふ世よ女太夫を牙よりけて投出し多り其後何れへ走去りしや知られどりの女

外科の醫生を請ふて股の疵を縫しめ療養を施しけるが苦痛甚しく存亡を知らざと聞り○同日曉新材木町河岸の納屋焼失○同日畫人菊田伊洲卒伊洲院法印の門人なり○角瓶人ツルギシ山山谷右衛門五十三歳十六年續て東の大關を勤む○近年一の字つなぎ二の字崩しといふ染物はやる是は町火消一番組二番組救火卒の目印なるをそれと知らで求人あり○豊國が筆にて天明の頃より文化頃までの俳優似顔繪を梓行せしむ

嘉永六年癸丑

○正月七日石川梧堂君卒去名へ總明字錫我一字龜甫又知秋庵舊幕臣也能書をもて世は聞えし人なり○同十六日朝より

大雪尺お滿つ翌十七日より十八日まで三日の間大雪降つもる十八日申刻お止む但し十七日より夜

へかけて降りたり七旬の老翁もりると見すと春寒殊に烈しく火災度あり○深川永代寺境内に操芝居百日の間興行す○三座芝居入替顔見せ狂言今春に延る

○二月二日己下刻地震三度水溜桶の水溢る此日同刻相州小田原の城下町をこじ島沼津の邊に至るまで地震數度お及び同夜子刻至りめ神戸大磯宿大山邊箱根伊豆の熱海三て人家を覆し火災起り死亡の輩あまたありしとぞ○同四日午中刻下總松戸宿出火暮時鎮る○同十二日暮六時過大塚小石川よりさきの大塚なり松平大學頭殿屋敷出火家の住居長屋又へ作事小屋等三町(軒)計焼竹林燃て響をなせり○同廿日より四十日の間駒込南谷寺目赤不動尊

開帳○同日より六十日の間王子權現同稻荷社開帳三月雨天の日多く詣人少し○

同廿日一刀流小野派劍術師淺利又七郎義信卒行年七十六歳酒井若州侯の臣なり淺草田圃慶印寺に葬す

○三月六日より六十日の間淺草寺町本藏寺に於て鎌倉松葉谷安國寺祖師并に熊王

稻荷開帳○同七日丑中刻市谷田町下二丁目より出火東へ二町程燒る西風吹雨中

なりし○同日より六十日の間本所回向院に於て去年催しける三州矢作光明寺

天満宮開帳あり牛若丸と淨瑠璃姫の木像あり近年の作とおぼし○不忍池浚ひ始り秋に至る○伊勢町に

於て一丈七尺の大鳥賊を見せ物とす目方五十貫目の餘なり上徳國海濱より得た

以爲死啄之○大塚護國寺の山内喬木の梢に鷹巢をくむ○本石町四丁目裏通り

東海道五十三驛見立の料理といふものをはとむ祥風亭と云ふ程なく廢たり

○四月十四日儒師龜田綾瀨卒稱三藏名長梓七十六歳鵬齋翁の男なり今戸稱福寺に葬○同下旬淺草新堀に三尺

餘の鯉一喉流れよりたるを此邊の者取あけけるが嗚呼の者ありて鋸曳などして

天台龍寶寺の池に打入たるが程なく死したり扱彼男俄に傷寒の病に罹りて終り

けるを鯉魚の祟ならんといふものありかば同寺の境内に埋葬し鯉魚の圖を鑄

たる墓碑を營みしに此碑を祈りて諸願成就する由云ふらして白痴の男女日毎に

來りて香花をさゝぐ程なく墓碑を廢せりこの鯉の似せ物所々へ見せものみ出せり○春より夏へうけ

て淺草寺奥山曲馬の芝居行はる座頭渡邊芳三郎なり○四月深川仲町に於て阿蘭陀渡りナ

ヤルゴロと号し函中自然と色々な音を出すの器また漢交茶釜と号して火氣なく

して熱湯となるの器をして看せものとするこの茶釜ハ文化中にもありし物なり

○五月十日曉八半時神田佐久間町貳丁目火事○同日より六十日の定にて本所回

向院に於て勢州國分の阿彌陀如來開帳あり別當大寶院同月七日此本尊江戸着にて品

川の品川寺を出立あり黎明より講中と唱へ一輩江戸并近郊より出其黨を分ちて

男女一様の新衣を着し何講中と記したる多くの旗を翻して佛龕を送迎す又見物

の貴賤群集し品川より兩國橋畔に至る迄二里餘り大路へ駢闐して錐を立るの所

なしあがるの午の中刻柳原岩井町上納地なる館屋源左衛門が店より失火し半町

の餘焼たりこれによつて救火の人夫と行違ひ道路の混雜いふ計りなきありるに

この開帳始りてより詣人多く繁昌しけるが亞墨利加の船始て浦賀に着せしより

俄に閉帳し七月又九月に至りて開帳あり境内に燈心みて大なる虎の形と豐干禪師の形を造りて見せ物とす細工人浪花

松壽軒なり又竹田繩之助が作の木偶もあまた見せたり外に昆布をもて廿四孝の偶

人をつくり見せものも出たり兩國橋の東詰に見立女六歌仙と題し女の偶人をつく

りて見する京師の大石眼龍齋吉弘といふ人の作なり其容貌活る○牛込横町濟松寺

境内毘沙門天社毎月六の日を縁日として參詣始る○五月下旬より七月中旬に至

り炎旱數旬を踰たり五月廿一日より六月十一日迄同十三日より七月十日迄なり同十一日十二日の兩日雨降

○六月三日北亞墨利加合衆國華盛頓使節正使マツサウの船大小四艘相州浦賀の要津に船し貿易を乞ふこれに依て諸家警固嚴整にして數艘の番船海上に充滿し 旌旗を繚して晝夜に懈らざるに同月九日浦賀の鎮臺戸田井戸の兩侯同州久里濱にして其呈書を受納ありしかば同十二日纜を解て沿海を發せり江府の貴賤始に仔細を辨せざし恐怖して寢食を安んぜざり老人婦幼をして郊外遠陬に退しめしもありしが平穩にして不爲所属諸人安堵の思ひをなせり是より後魯西亞英吉利佛蘭西等次第來船して書簡を呈し貿易を庶幾す後數度應接ありて乞ふ所に任せて假の條約をもて貿易と許し給へり此後數度通般する事勝計すべからざり其顛末と記せるものハ牛に汗一棟充べし依てこゝに委しくせざ

○泰平のねむりをさますおやうさせんたつた四はいで夜も寝られぬ或脚の滲戲のよしにて日のもとやまたちやるめるもふりぬまにとけて歸りしあめりりのふね○異國船渡來に付て回向院境内國府あみだ如來六月十日より開帳七月三日より又開帳あり廿二日より又開帳九月十八日より十月九日まで又開帳あり開帳六十餘日を 小舟町天王祭禮延て六月十九日出興あり廿二日に歸興なり○滲藏

前牛頭天王丑年によりて六月七日八日九日三日の間開帳あり○同十五日赤坂氷川明神祭禮執行出しぬり物 ○此頃鍛革の甲冑を製し街を賣りあるく者多し○今年蚊帳賣更に來らざり○六月廿四日柳橋の西なる拍戸河内屋半次郎が樓上にて狂歌師梅の屋蓀翁が催しける善畫曾の席にて浮世繪師歌川國芳酒興に乗ト三十疊程の澁紙へ水滸傳の豪傑九紋龍史進憤怒の像を畫く衣類を脱き繪の具にひたして着色を施せり其潤達磊落思ふべし

○七月佃島沖狼烟稽古今年よりこれなし○七月三日より六十日の間淺草寺町本藏寺に於て武州一の江妙覺寺祖師開帳○同十七日より始り暮時より戌の方に彗星現るけん星とも云ふ廿二日迄次第北へよ ○同十八日曉外神田なる松下町壹丁目代地出火○同廿二日より五十日の間幕府他界不付鳴物停止あり 鳴物停止に付國府あみだ如來開帳有○廿六夜群集の場所八月十五夜の宴八幡宮祭禮彼岸參重陽の佳節等寂として聲なし

○九月より品川沖に礮臺礮臺と云 新規築立修用始る此土を以て礮臺場の用に宛らる ○同十五日神田明神祭禮來る卯年お延る十五日日本社ふたて祭式ありしのみふて産子町々花出しぬり物等出す事なし ○回向院國府のあみだ如來開帳九月十八日より十月十二日迄三たび始る剱難除の守を

いたすそのうたをこらふ鉄炮玉ふあたらすとまゐるせり異國船渡來せるより思ひ
よりにて此守札を出せしなり浮屠家の貨殖をどくる事商家おまざりてうしこし

○十月八日より七日の間上練馬村圓光院貫井子權現自坊に於て開帳○芝神明宮祭
禮先月より延て今月執行○十月より靈巖島圓覺寺境内にて百日の間芝居興行

○十一月十五日西久保八幡宮祭禮執行今月より富社境内に於て百日芝居興行○浦
風門人白眞弓肥太右衛門といふ角瓶人出る廿一歳身の丈六尺八寸餘目方四十貫
五百目飛彈國木谷村の産といふ○十一月三座芝居役者入替り春ふ延る飭り物な
し○十一月廿四日夜子中刻池の端に數寄屋町吹抜といへる小路より出火廣小路
迄燒る長一町四十間幅五十間程なり

○十二月高輪築出地成就迄の間二本樓の通りに街道替る○同十五日曉丑下刻音羽
町三丁目明家より出火牛込改代町水道町古川町松ヶ枝町築地片町邊に至り夜明
て鎮火す長十町餘幅一町程なり武家地組やし
き等野燒多し○十二月廿一日曉雨雷鳴あり季冬
より春へりけ暖氣にして氷なし○洋船渡來よりこのりた西洋の地誌同戰記炮術
等の書を編し或は犯疆錄の類を翻譯し新編をあらはし刊行せるもの牛に汗と棟
に充べし明治の頃に至ては彌盛なり其題号一舉の盡る所にあらざといへとも見
聞お及ぶ所のみ聊こゝみ載たり

△夷匪犯境見聞錄寫本卷不定 △喚國侵犯紀畧寫本六卷 △鴉片始末寫本一仙 △清英戰
記二永山 △海外新話板本五嶺田右 △清英近世談十板本 △水陸戰法錄五寫本佐 △
海外異傳板本齊 △西洋雜誌前板本後寫 △海外人物小傳五板本 △海岸備要五板本 △瑣
國論附尾一活板蘭人編 △海防私策寫本羽 △三兵合法海上攻守說 △兵學小
識寫本初鈴木春 △三兵タクナイキ高野 △西洋軍馬惣說寫本 △練兵實備板本三山
△海防私議寫本長 △海防彙議板田 △甲冑便覽川 △泝滌百金方摘要板本五澤 △甲
冑着用次第板本岩井 △文武問答板本 △船炮新編寫本十 △軍陣備要救急摘方板本
△西洋火具編板本 △海上砲術全書板本 △鈐林必携重板二三 △砲術語選板本
△萬國旗章圖譜板本一 △船旗圖譜板本一折本松 △異國往來并漂流年表板本二枚
△漂客奇談板本一中 △亞墨利加總記板本一廣 △魯西亞本紀畧寫本 △異國落葉
籠板本一三 △坤輿圖識板本七箕 △同補同四 △八紘通志板本三 △地球方圖永井 △三
才正蒙板本三 △地學正宗成杉田 △新宇小識二寫本猪 △輿地志畧青地 △地球度制雷
地球圖折本一水 △同阿部標 △帝爵魯西亞國志三寫本馬 △魯西亞地名考寫本
△邊要分界圖考故八近 △射擲表板折本大 △雄飛論水府 △蘭學調法記折本板
新論會田 △避邪小言板本四大 △怪妄論板本 △釣船問答同 △步操軌範板折本培 △蝦

紙江年表 卷九 嘉永癸丑 十三 我刊我書

夷善圖△銅柱餘錄寫本三間 宮林藏 △蝦夷圖板愛 我堂 △蝦夷圖境輿地全圖板藤田 温卿 △蝦夷行程

記△蝦夷日誌寫本松浦 竹四郎 △颶風新話伊藤 氏 △米利堅新說△元寇紀畧△外蕃容貌圖畫

三△海國圖志印度 部 △神風遺談三 △英吉利文典一 △散兵用則△汾乙蘭土文範一 △

釋和蘭文言△鍊煩鑄鑑圖寫齋金 森鎌錦 △銃工便覽肥州小 城井上 △洋算用法一楊江 柳河 △蘭語通曉

牧天 穆 ○此頃鳥銃フナキ不用ふる所の火藥を製する所諸方に始りて荏原郡小山村板橋宿淀

橋町三田村其他數ヶ所に於て誤つて火を發し即時に怪我人死傷のものあまたあり

り○大小名或は陪臣其外匹夫にいたるまで洋船渡來よりこのうた攘夷又一

旦の浪和親等激切寛鉢の策を演建白せる輩勝計すべからむその内憶斷管見をも

てつゞり抱腹にたえさるものも鮮スナくらむとを或は深川冬木町に於て車輪船とい

へるものを工夫して造らしめけるが出來あへてして畫餅となり淺草の馬具師の

水中を潛りて敵に向はんがため革の囊を造りて息の通ふ手段と考へてその外

狼狽して井蛙杜撰の説をつらね世の笑柄となりし多かりし○坊間に所謂山師

と稱するもの貨殖をうちに攘夷を表とし兵器の利用其外色々の工夫をなして

願出たるものあり昔豊太閤征韓の時韓人日本の刀の利なる事を恐れて胄を製し

たりしに切る事もならされど重くして被る事ならむ世の譏と受しといふ同日の

談なるべし○江戸遊覽年中行事一卷梓行幽篁座主人編とあり

○政元年甲寅 七月閏政元十二月五日

○正月十三日亞墨利加の船再渡來して豆州下田へ着三月廿一日退帆す○此間官吏

應接の事件の我輩の委曲を辨知すべき所にあらむ其大畧の世人粗傳聞せる事故

こゝに記さざりし○西洋寫眞鏡の技術の天保の頃西班牙の某舍密セクレタの術に長しけるが

海濱の辰樓カインに據りて思ふ所あり深く其理を攻窮して工夫を凝らし終に此術成り

しと然れども本邦に更に知るものなかりしと今茲甲寅の春亞墨利加の聘船

本邦へ航通せし時茲州コトの官吏應接の序彼國人より官吏の容貌を慕して贈り越し

けるを見て各感歎し其方術を乞ふて傳習せられしより自ら衆庶に及ぼし武州久

良岐郡横の港に於て場をひらき其技を施しける輩あり始り男女の容姿を専とし

て山川臺榭万象に至らむ寫せる所も鮮明ならむ適依イ稀キたる疎影を得て珍重せる

人もありしが次第に串熟せるもの出來玉川三次信夫シンブ何某大鐘隆慶なんといへる

もの江戸に於て弘んとしける頃肥州長崎より内田九一といふもの夙齡の頃より

この地を羈寓してこれと學び奮勵して其術を得てより東武淺艸旅籠町に住し専

此技を弘め門葉日を重て蔓延し聲譽一時に噪し寫す所山川の秀美神祠梵刹の輪奐貴賤屋宇の鱗差蝸舍蓬戸にいたり又高貴の尊影を始とし士庶人の風姿より柳巷の嬌態梨園の靚粧其他雜技の黨に逮ふ迄聲譽一出さすといふ事なり其餘草木禽獸の類にいたるまで真し通るが故男女老稚争ふて覓る事おなれりおかれども市中に場を構へ求る人あれば即時にその像を寫すの家又万象の摹本を排列して售ふの肆盛おなりしは明治六年以來の事なり

再云内田九一名の重長崎万屋町の産なり幼穉の頃双親を喪ひ伯父吉雄圭齋と云醫師の許に養れて人となり彼地なる上野某に隨ひて寫眞の術を學び後武州横濱に來りて熟練し東京に弘たり先輩あれ共其可否をいひせりて九一ともて本邦創業の人と思ふが多し後駿河臺紅梅町に壯麗なる第舍を營みてこゝお住しけるが乙亥の季冬病痾し罹り惜むべし享年三十歳六ヶ月にして丙子二月七日卒せり其門人跡を繼でこの技を行へり又吳服町なる清水東谷も此技に長し其外横山松三郎淺草なる北庭筑波江崎禮二其他有名の輩枚舉お違あらず寫眞鏡の方法の柳川某が編の寫眞圖録二卷お委しく載られたり

○正月暖氣なり○正月より一朱銀通用始る

○二月十日曉丑刻青山綠町火事○二月廿日酉上刻南傳馬町三丁目東角より出火あさり河岸大富町裏手迄燒る

○三月廿六日夜雷鳴翌廿七日晝又雷鳴所々へ落

○四月二日より三十日の間押上最教寺什物蒙古退治旗曼荼羅を拜せしむ○同五日より六十日の間龜戸東覺寺大山同木の不動尊開帳○同十一日より六十日の間淺草寺町玉泉寺に於て鎌倉名越松葉谷妙法院祖師開帳日敵上人作○同廿二日己刻荏原郡小山村御嶽の森といふ所にて銃炮に用ふる合藥製造の時誤て火を發し水車の家崩れ即死三人重き疵をかうむるもの二人ありけるとぞ○伊勢町壠河岸拍戶百川カハにおいて卓子料理を始て行はれたり

○五月十二日雷雨深川扇橋細川侯中屋敷へ墮雷火にて燒る○同廿七日夜辰の口小普請定小屋より失火役所のみおて類燒なし

○六月十一日明六時過柏木淀橋の水車の家より火を發すこれへ年頃此川端に在し所の水車を以てこの頃銃炮の火藥を製しけるが今朝いりてり一奴隸火を過ち合藥お移りしり立地に火起り雷霆よりも恐ろしく凌兢響して其者へ五体微塵となり其家へ更なり淀橋町長十九間幅六間餘燒亡す此響にて近邊より角筈村



本郷村中野村等人家傾き或ハ潰れ倉庫も破壊一太木も傾たり家屋蕭疎の所なれども怪人五十餘輩ありと聞り江戸近邊ハいふに及ば近國へも響たりとぞ

○七月七日曉本材木町六丁目より出火長二町餘燒夜明て鎮る○同日より十五日頃まで深夜月の形七ツ或ハ四ツ三ツ半位に見ゆる

○閏七月十五日より三十日の間芝金杉正傳寺毘沙門天開帳○山王權現祭禮延て閏七月廿三日に執行前日より快霽例より涼し羅臺の正面の道夏より新吉原江戸町一丁目大黒屋文四郎が娼樓よて遊女を以て伊勢音頭の踊と始む程なく止○

七月下旬坊間に噂して來月ハはやり病あるべし晦日迄ハ牡丹餅を拵へて食する時ハ此患なりといふ妄譚行れ牡丹餅の賣れる事夥し○秋傷寒風邪等の病人多し

○夏の頃より入谷ハ松下亭といへる蕎麥屋出來る庭中に池をほり少く趣とせり○秋千駄木藪下の植木屋に瀧を作る又淺草寺奥山人丸社前にも瀧を作て諸人に浴せしむ○柴井町勘介ハ店を借て白銀職となせる安五郎ハ妻さんと三十八月

二日明六時男子三人と産む次男ハ同月五日ハ死す

○八月牛込赤城明神の境内に於て百日芝居興行○外神田修成道堀家大久保熊次郎殿屋敷の鎮守儀助稻荷寶珠稻荷子安稻荷社へ祈りて諸願成就するよしにてこの

頃より日毎ハ參詣多し法華勸請なり

○九月魯西亞の船豆州下田に着○同廿六日深川八幡宮修覆成就して今日遷宮の式を行ふ

○十月高繩ハ川越侯陣屋成高輪南町の内間口八十四間二千六十坪の町屋を取拂とせられ八丁堀松屋町河岸ハ於て代地を給はる○同月千駄木の邊菊の造物六軒程出來る染井巢鴨ハ花壇のみなり

○十一月三日曉丑半刻妻戀坂下手代町火事一町計り燒る○同日辰半刻地震市中大路へうけ出す翌五日深夜まで數度震ふ小川町諸侯のやしきハハ底潰れ其外土瘰の壁等所々ハ破損多く長屋潰れて即死ハ及けるもありし由なり同刻伊豆國甚しく震ハ東海道筋これ○三座芝居顔見せ狂言春に延飭物計りあり○同五日亥刻淺草聖

天町より出火西風烈しく猿若町三丁目へ移り二丁目壹丁目三座芝居并茶屋其外一圓燒け聖天横町金籠山下瓦町山の宿町一の權現花川戸町六軒町淺草寺地中十箇院借地町家等燒亡靈符の社ハ殘る本籠院ハ門前町家のみ燒く本社并山上別當恙なし

此火大川と飛て小梅なる水戸侯下邸へ移り小梅町小倉庵料理屋の手前にて止り黎明に鎮火す長五丁廿間餘幅平均して壹丁廿五間餘と云ふ○角舩人富士島其門人喜見城瀧之助土俵入をなす十四歳身のたけ五尺五寸目方廿三貫目駿州清水藩の産と云ふ回向院冬の角力へ出る○中の郷

業平橋の手前に料理茶屋をひらき在五庵といふ庭中湯瀧をつくれり

魯船來

多町火

○十二月十八日曉八半時柏木成子町より出火角筈新町へ焼込長一町半程焼亡せり
 ○同廿日夜四半時過ぎ深川雲光院本堂僧坊庫裡等焼亡せり○同廿八日酉下刻神
 田多町貳丁目北側なる乾物屋三河屋半次郎宅より出火して始ハ北西の風強く
 連雀町新銀町佐柄木町須田町へ焼込北風に替りて須田町二丁目通新石町より通
 り町筋本銀町本石町本町四丁目本兩替町駿河町北鞘町品川町室町壹丁目日本橋際
 迄東ハ小柳町黒門町三島町岸町永井町富山町紺屋町邊浮世小路鹽河岸瀬戸物町
 小田原町本船町同河岸通迄焼出し曉おいたり東風になり又色々替りて西の方
 雉子町四軒町三河町四丁目同裏町此邊武家地養安院屋敷鎌倉町龍閑町松下町永富
 町皆川町の邊にいたる此間に狭れたる町々の残る所なく焼て廿九日朝五時頃鎮
 れり牢やしき残り東神田平永武家地の焼亡ハ少く町數ハ百一ヶ町長十町三十間
 町餘幅平均にして四町四十間程といふ○此冬更ハ雨なし○此頃町飛脚といふも
 の市中へ出て書簡を届くるをもてなりはいとす淺草より出たるが始めて所より
 り出つちいさ成箱を脊負棒の先へ風鈴を下る

安政二年乙卯

○正月日晴天○正月より回向院境内にて子供芝居興行○同廿五日より湯島天神

境内於て芝居興行僅の日數にして止む○正月初旬所々梅花開く同○廿九日初午
 の宿宮ヨミヤにあたりしが同夜子刻本所駒留橋北なる松前侯屋敷より出火大風にして
 三宅侯其餘武家地多く焼け横網町小泉町臺所町武家地より回向院方丈書院庫
 裏へ移り夫より本堂土藏の棟へ燃付焼亡し明方に至り鎮る火事ふより回向院境
 ○二月餘寒強く去年より雪更に降らざり○二月十八日より八十日の間淺草寺觀世音
 開帳貴賤男女日々參詣群集せり同寺奥山に大坂下り活偶人イキモノヤといふ見せもの出る
 肥後國熊本なる松本喜三郎といふ者造る所なり木偶にあらざ泥塑にあらざ紙
 糊ホのもの云ふ手長島足長島穿胸國無腹國其外異國人物丸山遊女の偶人等多く
 男女とも活る人向ふ如し又竹田龜吉作大象の作り物あり見物群をなす又同
 所にて去年浪花に趣きて横死せし俳優市川團十郎八代が肖像狂言に出立たる形
 樂屋のさま極樂へ至り成佛のさまなど作りて看物とす普通の細工なれど最負多
 りり俳優の自盡をいたみし折ら故おのづからふして見物群集せり細工人竹
 田縫之助清一なり又輕わざ綱渡の上手増鏡勝代といふも同所へ出て見物多し○
 同十五日より六十日の間小石川傳通院地中福聚院三神具足大黒天開帳奉納物多
 出る物等○同廿日より三十日の間矢口村新田明神開帳五百年の○同廿日より六十

日の間淺草八軒寺町本法寺に於て下總國平賀本土寺白毫祖師開帳○二月より大相模大聖寺不動尊彼地にて開帳○同廿一日夜雷雨○同廿四日夜子刻過北紺屋町より出火白魚屋敷五郎兵衛町南鍛冶町疊町南傳馬町三丁目西側迄焼亡せり長一町幅一町廿間程なり○同廿七日鳳凰丸船浦賀より品川へ着す○同晦日曉八時淺草材木町火事

小網町火事

○三月より諸國寺院の梵鐘を以て大小炮小銃に鑄換らる○同朔日より六十日の間深川八幡宮開帳本社修復成しよよつて開帳す ○同朔日夜子下刻小網町壹丁目と堀江町四丁目との地尻境より出火坤の風熾にて小網町壹丁目同横町照降町小舟町堀江町親仁橋を越て堀江六軒町甚左衛門町葺屋町堺町岩代町新材木町新乗物町大坂町新和泉町田所町長谷川町難波町住吉町高砂町彌兵衛町元濱町富澤町若松町久松町村松町橋町同朋町馬喰町横山町通旅籠町通塩町薬研堀埋立地吉川町米澤町あ至り柳原向へ飛て淺草森田町旅籠町茅町平右衛門町等の代地第六天社茅町通東側一圓同所藤堂侯本多侯中屋敷善替所にて朝五半時過鎮火淺草御門渡り櫓焼失石垣焼損す町數六十八町武家地共長延十三町餘幅平均四町程なり○同三日より十五日の間牛島牛御前王子權現開帳○同九日より五十日の間赤坂圓通寺祖師七面宮

開帳○同十日より六十日の間本所回向院境内に於て常州水戸向井村藤澤山神應寺鎮守別雷皇神本地蹴上觀世音開帳惠心僧都の作なり○同十日より六十日の間寺島村蓮花寺弘法大師開帳○芝愛宕社前に繪馬堂再建火災の前本社の南ふ○三月より兩國橋修復始り南の方へ假橋りゝる○牛込若宮町清五郎が店をかりて酒を商ふ居酒屋といふ者なり遠州屋又藏が娘さと今年十五歳になりけるが市谷田町壹丁目なる手跡指南秀假堂某りもとへ奉公仕てありとに春の頃より男子あ變ぎ骨格容貌も全くの男子と成り里次郎と改む△按るあ變生男子の事件菑溪が閑田耕筆あも見え又西土の書にも見えたり△史記魏襄王十三年魏有女子化為丈夫△京房が易傳に曰女子化為丈夫茲謂陰昌賤人為王と云々又男化して女となれるハ△漢書哀帝建平中豫章有男子化為女子嫁為人婦人生一子△皇明通紀穆宗隆慶二年五月陝西民李良雨忽變為婦人與同賈者苟合為夫婦其弟良雲以事上所司奏聞とあり○五月より湯島圓満寺境内に於て百日芝居興行○同月元數寄屋町二丁目あ盆種の櫻花咲く

○六月十一日夕七時過雷雨所々へ落る
○七月十九日より五十日の間牛込原町經王寺大黒天開帳中老日法上人作 ○同十九日茶湯

元祿十六年以來の大震なるへ今夜四時より明方迄三十餘度震ひ 御城内石垣多門見附番所等所々破損あれ共格別の事なり△御曲輪内覺を並へ諸侯の藩邸或の傾き或の崩れ立地に所々より火起りて巨財瓦屋の焼崩る、音天地を響かゝ再振動の聲を聞く曉方に至り灰燼となれるも多かり△小川町の邊一圓潰家多く小川町猿樂町の所々より火起りて大小名邸數字焼亡せり△小石川隆慶橋手前江戸川續武家地焼亡△谷中天王寺五重塔の九輪計り折て落る△根津より下谷茅町の通殊に甚く人家潰たるを軒毎なり七軒町より出火茅町二丁目よりも出火してこの邊多く焼たり△下谷坂本も家毎に潰たり同三丁目より出火壹丁目迄焼たり△上野町壹丁目裏組屋敷より出火廣小路常樂院大門町黒門町長者町徳大寺一乘院中御徒士町その外類焼多し△東叡山諸堂別條これなり大佛の御首落て碎る不忍池石橋崩れ落境内茶屋残らぎ焼る△下谷御成道諸侯の邸總て潰たり△本郷新町屋の邊潰多く廻室所々崩れ落て即死ありける由なり△本町石町日本橋向の邊より大傳馬町小傳馬町馬喰町邊神田の邊へ去冬と當春の炎に罹りて家作あらたなる故おのづから痛少くよつて池魚の厄も又これなりされど土蔵の壁へ皆震ひ落せり△淺草田町の邊潰家殊に甚し淺草寺地中馬道邊より出火地中東

の方寺院十八宇并町家焼く田町壹丁目二丁目より火起て聖天町山之宿町金龍山下瓦町山川町猿若町芝居三座南馬道北馬道花川戸町西等焼て死亡人多く花川戸町河岸の角にありし六藏の石灯笼稀世の古物なりしが傾く事なくして全し△今戸橋畔拍戸金波樓玉屋潰れて火起り近隣類焼せり△橋場町金座下吹所出火△山谷寺町寺院大方潰れ又の大破み及ぶ山谷淺草町残らぎ潰る△淺草寺本堂二王門風雷神門恙なし本坊奥向潰る境内堂社多く潰れたり五重塔九輪のみ傾く△駒形町出火駒形堂の残り諏訪町黒船町三好町迄焼る△東本願寺の本堂恙なく地中潰たる多し△行安寺門前より出火玉窓寺より出火近邊焼る寺町寺院大破△吉原町の焼たるは他所より早し京町二丁目江戸町壹丁目より火起り其餘潰たる家より次第に焼出て一廓残らぎ焼亡す大門外五十軒道の北側のみ残り△小柄原より出火旅舎残らぎ焼亡△三圍稻荷社并未社額堂潰る土手の際に在りし石大鳥居倒れて碎る長命寺潰れ牛御前額堂其外潰る隅田川堤裂大地割れて泥水湧出たり△本所の地の殊に震動烈しく家々兩側より道路へ倒れかゝりて往來なり難かりしと死亡幾百人なるを知らぎ又焼亡の場所多し△本所緑町壹貳丁目焼亡同四丁目五丁目花町上村氏徳右衛門町龜戸町甲南本所荒井町北本所荒井町五の橋町出村

町瓦町番場町中の郷竹町同所武家地茅場町石原町その外組屋敷等潰焼亡す中の郷太子堂押上最教寺柳島妙見宮の門前拍戸橋本の家潰る菘寺本堂僧坊光藏寺長壽寺本堂潰る龜戸町少く焼小梅瓦町拍戸小倉庵潰る出火近邊焼る△一ツ目弁天社拜殿其外潰る船藏前町より出火此邊一圓に武家町屋焼る此火深川六間堀の火と一ツに成れり△五ツ目五百羅漢寺本堂大破左右の羅漢堂并み天王殿布袋四天王關羽を安潰三匝堂俗おさいえす潰といふ大破に及べり△深川の地も本所と等しく震動甚しく潰る家より出火多し熊井町相川町中島町蛤町黒江町大島町仲町山本町永代寺門前伊勢崎町龜久町富吉町三間町西町諸町元町常盤町六間堀町八名川町森下町小笠原侯井上侯太田侯下屋敷其餘旗本衆或は組屋敷等焼亡せり六間堀神明宮の火中に残り富岡八幡宮恙なし別當永代寺の大方潰たり三十三間堂三分の二潰る深川寺町玄信寺海藏寺本堂潰る猿江の邊寺院町屋多く潰たり△靈巖島鹽町より出火同所四日市町同所銀町二丁目大川端町焼亡△濱町水野侯中屋敷焼失△築地西本願寺恙なし銃炮洲松平淡州侯屋敷より火出て十軒町へ焼込△南鍛冶町壹丁目より出火同二丁目狩野屋敷五郎兵衛町疊町北紺屋町白魚屋敷南傳馬町南大工町松川町鈴木町因幡町常盤町具足町柳町炭町本材木町等へ焼込△柴井町も潰家

より出火あり△芝西久保麻布の邊其外四谷赤坂市谷等山の手と唱ふる所の震動少く潰家も隨てすくろり△品川沖津臺場の内建物潰れ土中へ入り剩火を發したり此夜潰家より火起り焼亡及ぶ場所間數左の如し

- 大手門前西丸下八代洲河岸日比谷幸橋門内迄長十三町餘巾平均三町程
- 南大工町より燃立京橋の邊一圓焼失す長五町余巾平均二町程
- 築地松平淡路守殿より火起り十軒町焼失長一町半余巾平均四十間
- 柴井町木戸際より起り同町のみ焼る長一町四十間余巾卅八間程
- 靈巖島鹽町より起り濱町四日市北新堀大川端迄長一町余巾五十間程
- 淺草駒形町より起り諏訪町外五ヶ町類焼長四町余巾三十間程
- 同行安寺門前より起り籠光寺門前玉窓寺より起る長卅六間餘幅卅間程
- 淺草寺地中より起り田町花川戸町猿若町焼失長八町余巾平均二町半程
- 吉原町殘らす非人頭々まへ内焼失長三町余巾平均二町廿間程
- 上野町一丁目武家境より起り下谷廣小路東の方一圓焼長六町半余巾平均壹丁十間程
- 下谷茅町二丁目より起り武家方燒池の端七軒町より起長二町半余巾平均四十

武
工
作
長
卷
九
安
政
乙
卯
二
十
二
戦
自
利
戦
書
屋

五間程

- 下谷坂本町三丁目より起り同一丁目二丁目焼失長二町廿間巾平均四十五間程
- 千住小塚原町より起り下谷みのわ町へ飛火焼失長一町半余巾平均五十間程
- 橋場金座下吹所より起り又今戸町より起り最寄焼失長一町廿間余巾平均廿間ほど
- 小川町邊燃立ち家不知一圓水道橋内まで焼失長六町半余巾平均四町程
- 濱町水野侯中やーき長屋内焼失長五十二間余巾四間程
- 小石川りうけいばー邊武家やーき焼失長四十二間余巾十間程
- 永代橋向南方深川永代寺門前仲町邊一圓焼失長十間巾平均三町程
- 深川いせざき町龜久町の邊焼失長三町余巾平均三十間程
- 新大橋向船藏前町六間ほり森下町邊焼失長七町余巾平均二町半程
- 本所絲町より堅川通り中の郷五の橋町邊焼失長六町余巾平均三十間程
- 南本所石原町法恩寺橋まで龜戸町燒失長一町廿間余巾平均十二間程
- 南本所荻井町北本所番場町の邊焼失長三町余巾平均廿五間程
- 中の郷成就寺向小梅町元瓦町の邊焼失長五十間程巾平均八間程

以上江戸中焼亡場所合凡長二里十九町余幅平均一て二町程と聞り

○三日朝五時過にいたり諸方の火やうやく鎮れり○神社の大方破損少し○凡此度の地震に武家町屋寺院等に到る迄家の全きは甚少し倉庫の悉く墜落てこれに觸て死たる者多し火災ある所の倉庫の悉く焼て家財雜具の更なり重代の名器珍寶亡び失たるもの數をたらせ再度の震動を恐れて貴人の庭中に席を設けてこゝに明し給ひ庶人の大路の疊を敷き戸障子をもて四方を圍ひまばらくこゝに野宿し傾たる家のかりそめに繕いてこゝに憩ひたり本所深川下谷茅町山谷等の地の家毎に潰れたれば更し大路の通路さへ成りたり傾て壞たる家の材木を集てはかなき假屋といとなみて住居しけるが甚しき食糧にさへ竭て焦土おたゝすみ悲泣せるもありけるとぞ○二日夜よりこのうた地震屢ありて更に止む事なし○町會所より日々野宿の貧民へ握飯を與へられ又救の小屋を所々に建て養はる富人も又色々の施しを行へり○地震の後酒肆食店商ひ甚少し絃歌鼓吹街に絶たり○地震の後池の端弁才天境内の料理屋残らざり門外へうつす○板材木作事諸職人傭夫の賃錢甚貴し官府より嚴重の沙汰あり○このたびの地震近郷の更なり近國にも及べりとぞ○地震の前兆色々の談あり又其夜危難おあひと輩さまく話

柄ありこゝに畧す○地震の事と誌して梓行せる安政見聞志同見聞録を題せし
册子あり坊間に售ふ所の一枚摺綴本にき多の類何百種といふ事を去らせ○吉
原町娼家の僑居の五百日の間免許ありて十二月より春へりけて次第に警作成り
元地の家作の翌辰年より巳年へかけ同年六月迄に成就して各徙移せり

○同僑居の地△淺草の東仲町西仲町花川戸町山之宿町聖天町金龍山下瓦町今戸
町山谷町馬道町田町一丁目二丁目△深川の永代寺門前町仲東仲町山本町佃町
常盤町一丁目松村町△本所の船藏前町八郎兵衛屋敷の邊なり 松井町一丁目
入江町長岡町一丁目陸尺屋敷時の鐘屋敷等なり

○抑此夜都下の急變いづこも同ト轍なれどわきて花街の忽劇のかならざしとい
ふべりらむいまだ夜更るゝあらざれば每家酒宴に長ト歌舞吹彈の最中俄に家鳴
り震動して立地崩れかゝりうつり押し柱折れ其物音の雷霆よりも凌越く魂中
天の飛び懾怖周章して二階と下んとすれば胡梯跳りて下る事ならざ狼狽して宛
轉落れば巨材其上に墮重りて五体を挫ぎ或は其間に狭れて自在を得せ號べども
援る人なく呼べども應ふる人なし瞬目の頃火起りて焰勢其身迫る危くして遁
れ出たるも途方を失ひ烟の哽びて道路に倒れ息絶たるもあるべし家のあるト家

族に於ても猶去かり僅に四肢を全ふして脱れ出たるもあれど資財寶貨の他へ運
ぶに違あらざりてむなしく灰燼となしつこの火五街に延蔓して廊中残る家なき
三千の遊君或は漂流あるひは亡たりかゝるどりふの看返り柳も見りへる事なく
合力稻荷も力を合するによまなら久喜万字屋の火前に向ひ火炎玉やわくわえん
にうづまる海老屋が柱のえびの如く曲りて焼け菱屋がかごの菱の如く窳て残れ
り較明方に及んで阿房一片の烟と立登り惜むべし廊中盡く烏有となりぬ焼死怪
瑕人幾百人ありけんさたかに知れるものなし火中に其骸と繹出し慘怛して腸
を断ちなくゝ家に送りて後葬儀を營む五十軒道の六道の街となり編笠茶屋の
あみぐさの郊送の被り物とやなりけむこの夜此里に遊び一躰人嫖客この妖孽あ
あひて或は横死し或は重き疵をうむり勃卒して路頭あさまよひたまゝ無事
にいて落のびたるも衣服佩刀を失ひあらぬさまゝて家へ歸りしもありけるとぞ
まして廊中の男女この夜の窮厄はた金銀財寶數を竭して失ぬる事量り知るべり
らむ痛むべく歎くべく何を毛穎をもて演る事を得んや

○十一月國家より諸宗の寺院に命せられて此度の禍を懼りて亡びたる輩迷魂得脱
の爲同二日施餓鬼法會を修せしめらる繙素參詣して香花をさゝぐ○此度變死怪

我人市中の呈状カキアケの變死男女四千貳百九十三人怪人ケガレ貳千七百五十九人とあり
 寺院に葬じ人數の武家浪人僧尼神職町人百姓合て六千六百四十一人と聞り○蘆
 の屋檢校の塙檢校よりこのりた警者の博識なり惜むべし地震の夜針術の爲に病
 家お赴て横死せり西久保光 明寺お葬○十一月より町會所お於て震災に罹り一貧民へ救
 米と分ちあたへらる○同廿三日兩國橋修復成就によつて老人の渡り初あり○
 同晦日長唄の三味線の名あり一杵屋六翁死七十 餘歳
 ○十二月二日切支丹坂火事○同七日夕七時より雪降出して少く積れり地震後假
 たる家々小屋ヶけ野宿の賤民その困苦いふばかりなしと云○同八日夜子刻八丁堀水谷町壹丁目より出火長凡
 一町幅五十間程焼失す○同十日北辰一刀流劍術師千葉周作成政卒淺州誓願寺に 葬す淺利又七
 郎の門人にして一派をなせし人なり二男榮二郎も名人の聞え有りし文久二戌正月卒したり○松平越州侯高田の中屋敷安置の
 觀世音今年より毎月十六七八日に諸人參詣を許さる○同廿日雪降て尺に滿つ
 ○地震後河原崎權之助が芝居名題森田勘彌に改む俳優前の坂東 三津五郎あり○近頃鹿麩の菓
 子に紅梅焼と名付る物を售ふ家多し是の香餅カッパと云んをち誤れるなるべし

武江年表卷之九畢

武江年表卷之十

安政三年丙辰

○正月二日曉櫻田御門外上杉侯屋敷より出火○小石川上富坂町出火○深川越中島
 續に炮術調練場を築せられ築地に講武所を取建あり○同十七日書家生方鼎齋卒
 五十八歳酒狂人の為お切害せらる ○春も少しき地震度あり
 ○二月より淺草寺奥山に活偶人イキニンマシみせもの再び始む肥後熊本松本喜三郎が作なり水 濟傳の豪傑忠臣夜討鏡山淨る
 り狂言の偶人一ツ家の姥爲朝お島人遊女屋内證の体久米の仙人布洗女など活るが
 如く造りたりこの假屋間口十三間興行十四間おて偶人の數六十二あり看せものを
 開けるうちイナギカキ○二月旋風吹くを度々なり○同十五日丑中刻北西大風なり一が下谷
 廣徳寺向おたふく横町の武家地より出火して此邊多く焼け立花侯佐竹侯柳澤侯
 松平總州侯松浦侯小笠原侯兩家加藤侯前田侯曲淵侯其餘小吏の家々下谷辻番屋
 敷半分等類焼して朝五時頃に至り鎮る○春淺草御門外第六天社境内お於て操芝
 居興行○二月上野護國院に七万日念佛會滿散この法會の慈眼大師の發起にて夫
 より以來今年今月七日に當れる由なり緇素老稚群參する事夥し三十三年目毎 法會を修せ
 らるいふ ○同廿四日より六十日の間下谷高岩寺延命地藏尊開帳世おどげ振 地敷といふ○同廿
 五日より六十日の間麴町平河天満宮社地に於て越後菅原村天満宮開帳京北野同 作と云

○三月八日より口限目黒正覺寺鬼子母神開帳○同十四日曉本郷附木店武家地火事

○同十五日より五十日の間成子常圓寺長生日蓮上人像開帳六老僧日持上人作○同日より六十日の間深川永代寺にて下總國我孫子宿子權現開帳別當延壽院なり日限半途ふして止む○同廿

日より六十日の間下總國成田山不動尊深川永代寺於て開帳江戸着の時送迎の人数千住より深川迄街巷ふ塞り難を立べき所なし開帳中日参朝参等夥しく諸人山をなせり永代寺境内の寸地を視さず看せ物茶店諸商人の假屋をつらねたり又奉納の米穀職挑灯扁額等境内に充滿せり○看せ物へ江戸細工人の造りし活人形里見八犬士の土偶人曲馬輕業大女の三人兄弟といふもの出たりこの姉妹へ下總國葛飾郡庄内領木の崎村百姓彦七娘にてなつ十六歳あるか十二歳とめ八歳といつれも格別大○同月四谷天龍寺後上水の端へ櫻樹數株を栽ふ間もなく廢せられたり○同月淺草寺二王門修覆始る○同廿七日曉大風芝宇田川町より出火柴井町再燒る長壹町五十八間幅平均一て廿間餘なり

○四月十一日曉牛込若松町火事組屋敷燒込

○五月四日儒醫深川元備卒稱潛藏子雲字儒學又老佛ふ涉り物産國學西洋の學もあり人なり本所御臺所町お住せり本所妙源寺お葬す○同月淺草寺五層塔婆の九輪地震の時傾たるを修理す○夏の頃より芝仙臺侯中屋敷に勸請ありし奥州松島搦竈明神送拜所へ毎月十日諸人參詣せゆるさる

○六月十五日山王權現祭禮恒例の通神輿行列車樂計り御城内へ入る附祭の伎踊遂物と云雇大神樂同獨樂廻一今年更ふ出さむ午刻驟雨雷鳴あり神輿の行列のみ跡に残りて雨にあひたり○新貳分金通用始る

新二分金

○八月九日より深川永代寺に於て相州江の島本宮岩屋辨才天開帳始り一が更に詣人少と然るに同月廿五日の大風雨に假家潰れて境内にある所の小堂に移し程なく歸國あり○秋九段坂下お蕃書診調所迄創建あり異邦後來の書并お和版異國の事を記したる書を改らるゝ由なり○八月より十月迄大の月三月續きしにより古例の通今月十七日十八日芝切通

蕃書診所

金地院觀世音開帳坐像として朱陳和卿が作なりといふ此日詣人へ求るふよつて抄子と與ふ家おかけて守とし又旅行の輩懷中して方位の凶を避る

大風雨

○八月廿三日微雨廿四日廿五日續て微雨廿五日暮て次第に降おきり南風烈しく成の下刻より殊に甚しく近來稀なる大風雨にて喬木を折り家屋塀牆を損ふ又海嘯により逆浪漲りて大小の船を覆し或は岸に打上石垣を損ト洪波陸へ溢濫して家屋を傷ふこの間水面にまはく火光を現す此時水中に溺死怪蝦人等ふべからむ曉丑刻過て風雨やうやく鎮れり始の程は少時雷聲を聞く又風雨の間地震もありし也翌廿六日朝より霽お属す諸商人恬業と休ひと數日なり人家所へ潰たる數ふべからむ寅卯兩年の災に罹りし場所家作の新らしきも潰れしあり去冬の地震にいたらしの更なり微塵になりしもの數を知らむ去年の地震に山手の家へ安泰なるが

多りりーが今年の風雨ハ江戸中一般の大破にて家潰傾かざるも屋上の板天井の板ども吹散らし覺を重ねし家々の殊み窓み倒れ海岸山崖の家ハわけて烈しりし山林あり喬木折摧け草ハ一夜に枯萎たりことに駭歎すべきハ築地西本願寺の修堂なりさしもの大厦なれども一時ハ潰れて微塵といなれり此邊船松町上柳原町南本郷町十軒町南飯田町南小田原町深川洲崎芝高繩品川等の海岸ハ殊に風浪烈しく人家を溺らし或ハ逆浪にさそはれて海中へ漂流し資財雜具ハ見るが内に流失たり諸侯の藩邸も海岸にある者ハこれに同トりー△深川本所の地大方床の上二三尺水の上りたるが多し同所に在し吉原町娼家の假宅大破に及び潰たるもあり△永代橋大船流當りて半は崩れたり△大川橋勾欄吹損トたり△本所靈山寺本堂潰る△淺草寺西宮稻荷鳥居折れ三社の前なる鐘樓ハ屋上と吹飛して跡方なし活人形見せ物假屋なりはを損ふこの邊めて家を損ひしもの此假家△御藏前華徳院閻魔堂潰る△湯島天神銅鳥居神樂堂倒る△御城内格別のいたみな半藏御門ハ渡り櫓紛れて落る御廓内松の大木折たるもの多し△芝片門前一丁目潰家より出火して雨中焼ひろがり神明町三島町宇田川町西の方等へ焼込たり増上寺山内ハ別條なりりー△其外市谷吉原町の内下谷杉村淺草日輪寺内その餘所ト

潰家より火出たり△砂村邊行徳の邊堀江猫實三崎の邊其餘近郊人家流れ溺死のもの多し柳原の柳風雨の後新芽を生トて春の如し楓葉をほみて看楓の噂なり菊も又同一十月所々返り花あり海棠花咲て春にかはらぎ△風雨の後はりなき假屋をまつらへ露眠の輩多く貴賤の艱難いふばかりなり△凡この度の風雨近郊ハ更なり東海道駿河の邊より信甲の邊所々よも及びしよりなり△此度の事件と誌して安政風聞志又地震海嘯考等の編輯梓行せり○町會所より市中野宿の貧民等へ修救米錢を分たる又富商よりも施行多し○九月下旬より諸宗寺院ハ於て去年地震の時横死の輩迷魂得脱の爲に再法筵を設く○同廿八日曉元飯田町中坂焼亡○淺草奥山に於て大輪の菊花八十餘種と集て看せ物とするよし其内四海の月といへるが差渡一尺六寸日本一勢龍西王母といへるが同一尺五寸其外一尺四寸より九寸迄の名目とあらハし九月の末より報帖を配りしと十月の始場を開てより行て見るよ花の大き漸く四五寸に過ぎ花にあてたる紙の大き一尺餘りもあるべし見物各欺りれたりそれ故り催主の名とあらハさゞりし

○十月二日より十一月二日迄本所回向院ハ於て明曆丁西江戸大火に亡び一輩二百年忌法事修行あり道俗日毎ハ參詣し滿散の日ハ殊に群集夥しかりし

○十一月柳原堤なる町會所建添地叔藏を葛飾郡小菅村に移し新し橋向に初敷ありしお建添られしなり其跡へあらたに町屋を建られ柳原請負地と號す翌年夏より次第に家作建排ね繁昌の市店となれり○同八日午刻過通三丁目東側中程より出火同四丁目東側福島町松川町下槇町樽正町へ焼込たり○同十四日朝五時本所入江町火事吉原町賤妓家假宅より焼出○同十六日曉龍閑町續神田一番の土手際より出火四軒屋敷類焼す○同廿日曉神田橋外養安院屋敷火事○同廿三日曉上野谷中道觀成院失火類焼なり○十一月より翌巳年にいたり淺草寺觀音堂前奥山等に櫻樹千本を栽ふ北方の佳人驛客のうゝる所なり享保に始り寛政ふ再ひ裁此度ふ至り三度なり

○十二月廿日畫人喜多武清卒八十一歳字子慎號可庵在翁五清堂文化の頃より世お行れし人なり二本履清林寺お葬す辭世の狂歌碑面お彫たれと拙けれバこゝおまるさす

○今年日本史御版成る二百四十卷六月の頃世よ弘られたり本邦の歴史此書にといまるおやあらん○麴町の續馬場庵厨に用ふる大なるに於て小笠原家の門人馬術稽古の爲炮礮調煉といふ事を工夫し始らる砲礮おあらす差渡四寸計の土器を頭上おいたいき砲術稽古の面を被り馬の上おて隊伍を定め打合ひ土器のこはれしを輪とし全きを贏とす見物多く出○亞國の船渡來せしよりこのかた異國諸州の船次第お通航し貿易を許し給ひければ和俗の稱へに。カナキン。ラシヤ。ゴロフクレン。綿ゴロウ。唐サントメ。などいふ物

日本史
版成

洋物流
行

多く持渡り賣買す價の廉なるをもて求る人多し其外諸器物等次第に運輸せるが故西洋諸品に限り售ふ塵も多く出來て貧殖せるものこれあり按るに近き頃迄ハ和蘭陀のみなり故お世人西洋の諸品書畫の類を見ておすべオラ本邦へ通航するハ名ンダと稱したり近來歐洲通航せるをもて其別をまらたる人多し○近頃十姉妹鳥の異品を養ふ人多し○大坂下り新十郎秀三郎光之助仙太郎雀三郎彌一郎虎十郎新玉などいふもの照葉狂言と號し能の間狂言おより歌舞妓狂言の所作を交へ所々お於て興行せし見物多りゆゑ江戸おてもこれをまねびしもの多りりけれといづれも拙かりし○此頃淺草海藏前に大笠と譚名せる賣卜者出る簾笠の差渡五尺餘もあるべし岡田某といふ

安政四年丁巳 五月間

○正月三日曉より雪降つもる去年の冬より火災ハ少し○正月より淺草寺奥山に於て故人高谷柳亭翁が編述の稗史田舎源氏の趣をもて作れる偶人ユキヤ其餘花街の休歌舞妓狂言の偶人と造りて看せ物とす秋山平十郎お製造なり○正月晦日より兩國橋詰に於て大坂下り早竹虎吉獨樂にてづま輕趨綱カシワヅツナ巨りその餘色々の技藝を交へ一人一て行ふ見物群集夥しこれ續て三月頃より櫻綱駒壽といへるもの其弟子幸吉福松助三郎などいへる少年と、もお大坂より下り早竹にひとしき業をもて淺草寺奥山

武江年表 卷九 安政丁巳 二十九 武江町 武江屋

小田原町と長濱町の魚店につうとる、男なりし吉原町
開番よりこのうた四人一時ふ情死せるためしを聞す ○同廿三日曉芝字田川町
西側災

○五月筋違橋御門外加賀原千九百八十坪を以て築地講武所付町屋敷に命せらる町
名を筋違橋御門外講武所附町屋鋪と云七月頃に至て家作成り繁昌の町屋と成り
閏五月より始り神田なる防火の封疆十ヶ所文政中築立を取崩し町屋を改られ町
會所付受負地と號す右封疆の土を以て今川橋通りの川筋本銀町一丁目北より龍
橋際ばうり 大傳馬鹽町北迄の間幅八間餘の川を埋て新規町屋と成り講武所付受
負地と號す八月に至り右川通理埴の事成て翌年に至り次第に家作建揃ひたり川
橋并東西に在し四ツ ○夏より永代橋御修復始るこの間北の方茶店
の橋と廢せらる

○六月南傳馬町天王出輿の事十一日ひ延十八日歸輿あり○同十五日赤坂氷川明神
祭禮車樂の外に曳物ニツ出伎踊遷物ハ出さこれハ本社破損より附祭を
夏櫻田久保町の原に轆轤首の女とて見せ物とす 眼からくりの如く箱をつくり中
回なりいづそりと知りながら見る人多し 又此邊に同案の見せ物出でろくろ首の
女二人となれり○吉原町娼家の僑居六月を限りとして引拂ふべき旨を命せられ
追々に新宅成りて舊地へ歸る假宅の間六百日なり引移 ○秋新大橋の東岸お蝦夷

地産物會所を建らる

○七月九日より六十日の間深川淨心寺に於て甲州身延山祖師七面宮開帳參詣群集
明より開門を待て參詣す講中の輩神事の時持出る万度といふもの、如く思ひ
の行燈をつくり燈火を点じてこれをかつぎ群をわかれて一様の衣類を着し太鼓を
打題目を唱へて往來する事たへす ○同十七日より九月廿七日迄大師河原平間寺弘法大師開帳參詣
多 ○同廿二日夜風雨雷鳴あり川々出水家屋を傷損す○同廿六日夜
廿六 月の出を待つ所の所々并日暮の里諏訪明神祭禮參詣の輩急雨あひたり
○八月四日曉八時淺草西福寺庫裡より失火して本堂方丈其外悉く焼たり○同廿八
日淺草大護院二十世道本師化寂權僧正に任ぜ世壽九十歳神奈川金藏院に ○同廿
九日曉本材木町七丁目出火○同晦日牛込原町出火○八月より外神田新町屋へ入
形芝居始る

○九月十五日神田明神祭禮神輿車樂等淺城内へ入る附祭踊伎遷物ハ出さ參詣群大
交廻しも不出婦女の警固一切 神樂大
なし十六日禮參り雨よて淋し ○同晦日茶人川上滑白卒六十九歳お玉が池に住せ
せ九日に凶會日九日ありとて人々忌けるが更に事なかりし

○十月朔日二日回向院にて去る卯年地震の時非命に終りし輩追福として法事修行
ありその餘諸寺院にも修行あり諸人參詣供養す○同十日湯島天満宮祭禮十一日

武江年表 卷九 安政丁巳 二十九 武江町 武江屋

米便入
江戸

十二日に延て執行あり産子町より車樂伎踊遷物等あまた出せり廿年ふ兩日快晴よて見物の老少群をなせり當年の所々の祭禮各車樂遷物等を催して賑へり
 大久保西向天神谷中諏訪明神牛御前根津權現 ○十月上野山下小床見せ再興あり
 白山權現小石川氷川明神等なり其餘猶有べし
 茶見世講釋鳩見世物食物店書物 ○同十二日朝より北風烈しかり一ヶ夜九時過駒込淺草町より出火して白山の手前淨心寺同門前町家一音寺阿部侯の下屋敷の長屋へ移り夫より飛で駒込片町同追分町本多侯屋敷まで焼亡す長二町幅平均して一町程なり○十四日亞米利加合衆國の使節副使と、もに二人始て江戸へ着す今朝
 川崎を立て品川高繩通り町筋本町二丁目より浮堀堀通小川町九段坂の下番番所へ至着す頃見物の老少面を以垣とす逗留中副使ハウスケン田安門外場的場於て馬術をまゐる ○十日中旬日を失す午の半刻晴天にして遠雷の如き響いて東北より西南をさして空中を鳴渡る事二度計り不思議の事と思ひに鴉鳥一お獵子鳥又鷲胡雀巨細群となりて飛渡りたるよなり其翌日よりして麻布青山渋谷の邊樹木にこの鳥夥しく止り棲たるを捕得たるもの多かりし由なり○同廿四日夜四時前大雨中淺草三間町火事○當冬火災少く世上穩なり
 ○十二月六日昌平橋畔ふて淺草の棹子神田の救火卒と喧嘩して其夜神田の俠夫競ひ發り柳橋向淺草に押寄せて棹子何某が家を隔ち翌七日再度鬭争に及びて双方

越中島

疵をかうむるもの多かりし○冬深川越中島續き武術調煉場築立成就す○荏原郡大井村梶原稻荷社遽然に時行て參詣群集し諸願をかくる近邊茶店等多く出たり一ヶ間もなく止む○牛込加賀屋敷青木左京殿臣飯田順之助易義と號す今年百十六歳の由稀なる長壽にして亦も豊饒の翁なれど更に文字お疎し漸く此頃他人にすゝめられ少しく文字と書す
 安政五年戊午

安針町
火事

○正月三日曉より雪降積り尺に餘れり○戲れの大小「小正算ちがひ六七四十三」○同九日夜亥下刻みや淺草猿若町三丁目森田勘彌が芝居より出火して同町二丁目聖天町金龍山下瓦町等焼失眞土山の恙なし猿若町燈丁目○同廿一日雪亞墨利加の使節江戸を立ち芝より乗船して豆州下田へ赴く○同廿二日夜麴町平河町火事○同晦日夜中より雪秉燭の頃積るる尺餘なり○正月より神田紺屋町土手跡に操芝居興行又二月より新草屋町理立地にもかぶさ芝居興行せり何れも竊おはトむる所なればやがて停られたり
 ○二月朔日明六時芝愛宕下木下彦屋敷より出火○同十日彼岸の終り初午朝より北風烈しかりし日暮てより少しく鎮りぬ然るに戌刻安針町長濱町二丁目の境魚

武江... 我... 我...

店の納屋より火出て一時は焼廣かり瀬戸物町伊勢町本小田原町長濱町本船町室町裏通へ焼込江戸橋を越て四日市町青物町萬町通一丁目二丁目裏手音羽町佐内町小松町川瀬石町本材木町四丁目迄新右衛門町樽正町平松町南油町中通又海賊橋向牧野侯屋敷へ少しく火移り坂本町南茅場町山王旅所門前其餘八丁堀邊一圓焼亡す松平越州侯九鬼侯の殘る中與力町火中ふして殘る北紺屋町金六町岡崎町松屋町日比谷町永島町松屋町幸町長澤町本八丁堀高繩代地北島町竹島町南八丁堀へ移る橋際稻荷社の危く殘る又苅藪島も殘る靈巖島川口町長崎町銀町圓覺寺富島町東湊町に至り佃島へ飛で住吉社も焼たり夫より本湊町船松町十軒町へ焼込武家への阿州侯中屋鋪細川侯焼失松平淡州侯屋鋪少く焼込此所にて止る翌十一日巳半刻に鎮る町數八十五町長延十八町餘幅平均して四町程なり此時土藏の多く焼たる卯年の地震後修復の鹿略なるがゆゑ焼たるが多しとぞ市中初午稻荷祭火事より大方二午ふ延す多し○同十五日曉寅刻小日向竹島町武家地より出火して上水端江戸川の邊武家地牛天神下諏訪町等焼亡○淺草寺奥山へ貝細工見世物出植本草木鶏ふ太鼓人物等なり○三月二日より六十日の間市谷柳町光徳院千手觀世音開帳天満宮は作といひ傳へたり四十九年目の開帳なり芝居見せ物多く出奉納物多し參詣群集す○同三日より六十日の間川口善光寺阿彌陀如來開帳參詣多し○同三日猛雨中曉七半時通新石町西裏通御菓子屋伊之助宅より出火佐柄木町

阿蘭陀領事官

鍋町同北横町へ焼込夜明て鎮る長五十間幅三十間程なり夜明て後風雨猶烈し○同五日亞墨利加の使節再出府して蕃書診調所へ着し當分こゝに泊す○同十日阿蘭陀領事官愛宕下眞福寺へ着す亞人三月十六日淺草寺へ十八日王子筋へ遊觀せり是より以來蘭人魯人英人度々遊歴せり○同十一日より六十日の間淺草新寺町正覺寺に於て甲州青柳昌福寺祖師開帳○同月永代橋修復成就す○同月より飯倉瑠璃光寺境内にて百日芝居興行○四月五日戌中刻深川亥の堀火事○同五日蘭人回向院にて相撲見物これより後屢これあり○同月下旬甚冷氣を催す○同月頃より米穀價貴踊す○十四日夜雷鳴本郷へ二ヶ所へ落○五月七日亞墨利加人豆州下田へ退く○同十五日より六十日の間回向院に於て上總國松谷村勝覺寺本尊釋迦如來并に四天王像開帳四天王の像へあらたみし所なり詣人更あなし○同晦日夕七時谷中三浦坂下火事花火を製して售ふ人ふて火をあやまち即死四人あり家數五軒程焼たり○吉原仲の町往還へ花菖蒲を栽る花あやめうつしうれは里なれてゆるしの色の紐やとくらむ六朶圓○六月四日和蘭陀の使節眞福寺發足○同六日夕八時過驟雨降出し七時より猛雨雷鳴強くして深夜迄に數ヶ所へ墮る江戸の内計も凡四十餘所と云ふ近郊も及せりとぞ○同十一日より日々雨降十四日の山王祭前日にて朝雨より後止て曇り宵より晴て月清明なり○同十五日山王權現祭禮去々辰年の通り神輿行列并車樂のみ出で城内へ入る附祭伎踊遊物なし今日快晴にてあり

武江... 安政戊午... 三十一... 我... 我...

しぐ日暮過より夜に至り大雨盆を傾るが如く又雷鳴あり出し計りの大抵其町神内へ曳入れし頃なり神興行列山下門の内より此強雨にあひ壕塹の水陸地へ溢れ膝下より水に浸りて各迷惑せしとぞ又所々に出水あり

○七月四日魯西亞の使節豆州下田より芝真福寺へ着す同日英吉利使節船品川沖へ

着西洋の船次第本邦へ来りし其船品使節其外芝西應寺へ着す十八日英吉利船出帆○同

十八日書家市川米庵卒九十歳名三亥字孔陽稱小左衛門一号亦頼○同十九日より

六十日の間深川淨心寺あて甲州小室妙法寺祖師七面宮開帳妙法寺の宗祖上人山伏と宗論ありし

舊跡なりといふ消毒の汚供出る諸人これを乞求諸人多し○同廿六日快晴にてあり

八月八日より十五日休み十月二日よりふたひ開帳あり○同廿六日快晴にてあり

しが申下刻より雨降出し夜中降つゞき曉にいたりて尙大雨に成る廿六夜待とて

月の出と拜する場所更に寂寥たり日暮里諏訪明神祭禮前日あて神輿を渡せしが

夕方より詣人散亂し去年に同トさまなりと翌日又大雨にて所々大水溢れ出たり

○同月淺草寺奥山の朝顔の見せ物出る近邊朝起の人あられされべ見る事あたなり○

同月江戸より相州大山石尊社参詣の者少し是の去年江戸講中程谷宿に於て彼地のもの喧嘩あ及たりし故とぞ

○夏中雨多くて炎威烈しうらす秋にいたりても天顔快晴の日少し冷氣がらにて眩暈逆上眼病頭痛とやむ人多し○同月末の頃より都下に時疫行れて芝の海邊

鏡炮洲佃島靈巖島の畔に始り家毎に此病痾カ罹らざるのな東海道中駿河の邊よりとやり来りし

云八月の始より次第に熾あして江戸中并近在に蔓り即時にやみて即時に終れり

貴人ハ少し始の程の一町に五人七人次第に殖て檐エと並べ一ツ家お枕を並べ臥たるも

あり路頭に匍匐して死あつけるも有けり此病暴瀉ハ又ハ暴痧ハなど號し俗諺に「コ

ロリ」と云り西洋の「コレラ」又アジャ「タイカ」など唱ふるよし東都の俗ころ

死をさしてころりと死したりといふ俗言に出く文政二年病行れしよりまうい大

へりまうるに西洋にコレラといふよしを思へばかのづうら通音なるをうし大

うたの即時に嘔氣を催し吐瀉して後續て瀉痢をなし手足厥冷チ寒痺ヒて企踵コに

絶命す稀おの數刻の後蘇生せるも有ける由多くな天札ハの輩にして老人に尠く又

小兒にも鮮し醫生の監輿を飛して東西に奔走し庸醫藥舖といへども藥餌と乞ふ

もの更お絶る事なし官府よりも藥法を擇で貴賤に示されたり偕此虚にや乗しけ

む狐惑ハの患もあり此等の妖孽を攘ふ爲とて鎮守祠の神輿獅子頭を街頭にわたし

此頃幕府の浮他界ふより鳴物停止ありし時なれを絃歌ハ聞巷に齋竹ハを立軒端に

鼓吹聞聞ふ絶へ市中も寂寥として物淋く夜中往來甚少し聞巷に齋竹を立軒端に

の注連を引はへ又ハ軒端お挑灯を燈しつらね或ハ路上に三峯山遙拜の小祠と營

し所もあり節分の夜の如く豆とまき門松を立けるも有し故厄拂の乞丐カ人も出た

り何人か云出しけむ道中あて天狗の示現を得て疫神を攘ふの壓勝ハなりとて羽團ハ

武江編纂卷十

賤民へ白米と頒ち與へらる米價登揚并に時疫行れたるが故なり○九月下旬風邪流行○九月十月雨少し○九月又彗星申酉の方に現る○九月廿日酉刻本所相生町四丁目火事○同晦日丑中刻駿河臺高山氏邸失火

○十一月四日亥刻三田豊岡町火事○三座芝居俳優入替り顔見せ狂言なり○同一月十二日朝より乾大風砂石と飛す未下刻赤坂三分坂上專福寺門前の町屋より失火せり此頃早天打續たりい大風により同所寺院は掃除町赤坂新町元馬場邊組屋敷は旗本衆屋敷數宇一ツ木町三軒家の邊清水水谷榎木やしきの三河臺まで武家方數宇大は番組屋敷不動院同門前町屋六軒町市兵衛町北の方焼込同所西武家方多く焼飯倉片町永坂の上戸澤侯京極侯中屋敷狸穴邊武家方數宇麻布十番薪河岸といふ邊に至り夜五時頃鎮る飛火にて焼たりい故其間々々残れる所あり故に焼込の場を拾ふて數ふるに長さ凡十四町三十間餘幅平均して壹町三十間の餘なり赤坂氷川社ひ○同十五日曉丑刻神田相生町の北なる若林氏屋敷より失火と始り乾の風烈しく同所續武家地へ焼込相生町松永町八軒町佐久間町一丁目より三丁目迄仲町一丁目花房町邊へ廣がり和泉橋燒落柳原堤を越て柳森稻荷社東神田錄倉横町代地松下町代地龍閑町代地横大工町代地濱松町此邊武家地市橋侯横瀬侯屋敷

神田相生町大相火

お玉が池武家地數ヶ所細川侯小泉町豊島町焼込久右衛門町松枝町弁慶橋通籠旅町へ飛火大丸屋橋本町馬喰町二丁目迄又明方良の風に替りて堀留町大傳馬町半屋敷鉄炮町小傳馬町より小舟町堀留町新乗物町岩代町新材木町葺屋町境町半分元大坂町甚左衛門町小網町一丁目荒布橋燒落る又東の風になりて神田町一圓に焼たり内神田おてい織お残りしハ養安院北より西の限へ岩井町平永町小柳町柳原受負地須田町連雀町佐柄木町青山侯長屋少し焼込雉子町四軒町三河町四町同裏町共不殘本多侯屋敷其外三河町續武家方焼込御堀端錄倉町龍閑町本銀町四軒やしき新石町鍋町鍛冶町本銀町本町石町兩替町北鞘町品川町駿河町室町通町筋本船町安針町長濱町伊勢町瀬戸物町日本橋半分燒橋向四日市邊より通一丁目東側貳丁目三丁目四丁目一圓吳服町西河岸町南傳馬町檜物町榎町桶町河岸通り南鍛冶町五郎兵衛町疊町の邊は堀端迄燒込紺屋町殘る東の中通りへ青物町より川瀬石町まで兩側夫より南へ箔屋町より先西側燒通り具足町炭町の邊に至る晝過ふハ巽の風に替る 同夜戌下刻鎮る又御曲輪の内因州侯屋敷も災にかゝられたり町小路燒死怪我人筭ふべからむ倉庫の燒落たるも甚多し又旋風吹起りて御塚の端へ運び出たる資財雜具を虚空に卷上たりといふ凡長延廿二町餘幅平均にして七町

武江編纂卷十 安政戊午 三十四 戦国御書

養寺燒亡月桂寺市谷谷町燒亡板倉防州侯下屋敷燒込百人組并松平伯州侯下屋敷
松平佐州侯中屋敷水野土州侯下やじき念佛坂上下一圓大窪邊組屋敷等にいたり
朽木江州侯屋敷法善寺その外燒る鬼王神社天満宮等ハ殘れり牛込原町二丁目三丁目廿人町若
松町同所續組屋敷幸國寺願正寺蓮光寺清久寺法身寺廿人町長久寺南昌寺正光寺
專念寺大龍寺常泉寺常立寺寶祥寺高田松平越州侯下屋敷馬場下横町早稻田町松
平能州其下屋敷供養塚町先手組屋敷持組々屋敷徒士組屋敷根來百人組屋
敷其外武家地多く燒亡平松寺感通寺のこる西側寺院門前町屋高田毘沙門堂水稻荷穴八幡社殘る
宮井別當放生寺櫻門計龍泉院靈感院早稻田町正法大養寺龍善寺宗清寺眞成院高
田馬場手前植木屋一圓料理屋の側殘る清水侯抱屋敷破損町尾州侯外山下屋敷燒
失の高田の火目白臺へ飛で松平大炊侯屋敷細川侯下屋敷松平羽州侯下屋敷へ燒
込又一口の清土雜司谷村高田村戸塚村龜井隱州侯下屋敷中山備州侯抱屋敷早稻
田村一橋侯抱屋敷其外諸家下屋敷燒亡大野山本淨寺飛火にて燒西青柳町音羽壹
丁目西側迄燒亡此所にて廿二日辰下刻鎮火此時分ハ救火の卒券券して更ハ見え凡諸侯上屋敷下
屋敷合廿餘宇小名の枚擧すべからむ組屋敷も數ヶ所燒たり神社三字寺院五十餘
宇町屋卅五町程長凡壹里八丁餘幅平均して四丁半と云此長ハ類燒の場ヲ拾ふていへるなり青山より

雜司谷迄ハ二里ハ餘るべし此邊のもの多くハ池魚の厄に罹れるもの稀ハしか、
る大火ハあひ急遽忙迫して道を過ち其身を損ひしもの多かりしよしなり燒死怪
我人倉庫迄燒失ひた
○二月廿四日より六十日の間本所表町榮壽院本尊條塚地藏
尊開帳惠心僧都の作條原伊賀守守本尊と云○同廿五日龜戸天滿宮祭禮執行去年八月の祭禮延たるを今年二月の祭禮の祭を
も兼て執行あり神輿産子町々渡御の事久しく絶たるを今年渡り參らす別當の行列
ハなし大なる獅子頭を出す産子町々より車樂十七輛踊臺五齋地走り踊等出す當日
快晴あて殊ハ暖氣なり江戸中の見物群集する事夥し但神輿渡御道筋本社より表門
廿四日前日ハ小雨降し故廿六日廿七日も渡したり
川端へ出南へ龜戸町清水町北松代町四丁目迄東へ旅所へ入同門前より東へ同
町南本所瓦町北松代町四丁目續き龜戸村五ツ目渡場迄夫より引返し西へ旅所橋
渡り松代町柳原町通北へ本所茅場町松代町と武家地の間廻り元の松代町柳原町
横川の通橋を渡り西へ花町緑町相生町通り北へ尾上町元町の通兩國橋東詰駒留
橋藤堂侯前小泉町回向院裏門通土屋侯松坂町の間より南へ又東へ曲り相生町綠
町北裏武家地境の通夫より南へ横川の橋を東へ渡り南へ辻橋渡西へ徳右衛門町
材木町松井町河岸弁天門前より東へ武家境津輕侯横通南へ菊川町河岸通菊川橋
渡向河岸京極山名鳥居家前柳原町より四の橋を北へ渡り小梅代地東へ本多井上
堀家前を深川六間堀代地柳島町の間左右出戻り天神橋渡り北へ河岸通裏門より
還輿あり

武江雜錄卷卅 安政己未 三十六 哉自刊哉書屋

三月三日上巳佳節快霽此頃上野彼岸櫻盛なり夜入て雷鳴氷雨降る○同十日曉

龜井町火事○同十三日暮時駿河臺淡路坂火事西村氏○同十五日夜西北大風戌刻

神田仲町壹丁目藁屋富之助宅より失火して同二丁目三丁目柳屋敷牛込代地花房

町通船屋敷佐久間町壹丁目河岸此邊去冬燒たる所多し竹木炭薪の置場へ移り夫より柳原

堤と越へて去冬残り一柳森稻荷本社計り燒柳原受負地柳原岩井町紺屋町三丁目

代地にて鎮る跡の火の猶熾おして八軒町相生町六軒町松永町花房町代地等燒て

十六日曉丑刻頃鎮る長貳町四十間餘幅平均して壹町廿間程なり去冬十一月燒て漸く家作なりし

と又假建等の家多く燒たり○同廿一日より五十日の間下谷唯念寺に於て下野國高田山一光三

尊阿彌陀如來開帳多し○同廿七日曉南本郷町火事○同月末より四月五月冷氣なり

り○同月頃より麻疹類せる病氣行はる○同月末日本橋掛替修復成○同和泉

橋掛替成る○同月末より四月に至り高野山木食諦念といふ僧本所一ツ目大徳院

に宿して諸の病人へ加持を施し藥湯の法を示す日毎に群集の人多し五月末當地に宿して

○四月朔日阿蘭陀の船品川沖へ着す使節高輪東禪寺に逗留す關船江戶へ來るの始なり

○五月五日より兩國橋西廣小路に於て紙細工の看せ物出る中ふ色々の商店を造り金物屋瀬戸物屋八百屋

乾物屋鮮魚干魚屋其外各商品を紙ふて張り飯又鉢裁の草木田圃の菜蔬菓同五月飯

鹹の類とも造れり英賀亦米横山分司櫻と云もの、製造とを見物少りし

阿蘭陀

易始

弗通用

倉町續き下曾根辰彦預り調煉場明地へ異國人の旅館を建らる接寓所と号らる○同廿三

日番人高島千春稱壽今年八十齡薙髮して柳橋拍戸に於て賀筵を開く○同廿六日

英吉利船品川沖へ着使節東禪寺に宿す亞墨利加へ此節麻布善福寺に宿す○同月魯西亞佛

蘭西英吉利阿蘭陀亞墨利加等五箇國貿易を免さる

○六月貳朱銀通用始り小判一分判を吹替られ異國銀其儘通用せしめらる○同朔日

より三日迄飯倉熊野權現祭禮車樂器物等出て瞻へり○同月初旬より飯倉瓊瑠光

寺境内にて操芝居百日興行結城座より興行して櫓を上秋よりいふまゝ成る

○七月より小川町三崎稻荷社の前通武家屋敷へ替地を賜り其跡へ講武所を建らる

三崎いなり社の東の方水 ○同月より淺草大川橋修復始る○同十八日魯西亞使

節の船品川沖へ着し同廿四日三田大寺に宿す八月九日退帆○同月下旬より去年行れ

一暴痧病ふたゝび行れ男女死亡多し九月お至て止む南都泉州大坂の邊分て行れし由なり○同廿五

日朝より大風雨家屋牆屏を損し樹木を折所々出水あり近在も又出水ありて堤を

崩し田圃を傷ふ

○八月十二日夕方より翌十三日へけ大風雨○同十二日儒師日尾荆山卒七十一歳本姓魚住

後日尾と改む名定光字徳光稱宗右衛門号瑜直歴至誠堂といふ和漢の學に富み書を善くし歌を詠し人なり谷中本通寺に葬す其傳日暮里修性院に立る所の碑文に詳な

試江軒振遊安政己未 三十七 哉翁向哉書

壹分銀
吹替

條約書
成

鐵小鏡

種痘所

同十三日一步銀吹替修御○同十五日曉淺草南馬道町より出火隨身門の外南
より出自性院壽徳院境内町屋類焼○同十六日佛蘭西船品川へ着使節の三田濟海
寺に宿す○同月異國御條約五卷梓に鏤めて貴賤に徇示さる○日本紀畧刊行全備
いたす○同月神田多町二丁目にて菜蔬を售ふて活業とする甲賀屋長右衛門卒すこ
の人生得魚介虫に委しくことごとく種類を分ち其圖を摹し其説を擧ぐこの内鯛
譜二卷説一卷と梓行せり圖の自畫にして尤よし其餘の草稿のまゝにしていまだ
印行せざその稿の家の家に藏せり

○九月より鐵小鏡吹立を命せらる○九月十月甚暖氣なり眼病煩ふ人多し○同十五
日神田明神祭禮前々の通神輿車樂附祭送物修履大神樂獨樂廻し等出て殘らざり
廓内へ入る十三日より快晴おして見物殊に夥し ○秋より芝田町四丁目海岸の外
國人上陸場修取建あり翌年成就す○和泉橋通りに種痘所建

○十月二日夜桶町貳丁目火事○同十日湯島天滿宮祭禮産子町より車樂伎踊送物
等多く出せり十月の地主神戸隱明神の祭なるべけれど自ら天滿宮の祭と心得た
るなり九日宿宮の日大雨降ければ十日と宵宮とし曇天にわたし又十日に大雨降
り雨にわたせりねり子共の衣裳伊達をあらそひも泥土にけがれたりさ
れと傘をも用ひざりし江府の風俗なるべし車樂十三輛踊臺五荷地走りをさり
も出たり○今年の下谷五條天神相殿の天滿宮赤城明神小石川氷川明神その外祭
禮のねり物等出て賑へり○同十七日申刻御本丸炎上○冬にいたり米價貴揚す

本丸炎
上

○十一月三日申刻麻布籠土伊達遠州侯邸より出火北風にして籠土材木町修先手組
屋敷焼る阿部播州侯やしき少し焼込日暮頃鎮る○猿若町三座の芝居俳優入替り
春に延飾物なり○同月章魚を釣る事多し魚店毎にこの魚を商ふ○同八日大雨晝
時過より霽に属す此日酉の日にてありしが驚大明神社參詣少しこれよりして晴
天續き更み雨なし十二月小火屢あり○同廿五日戌刻深川相川町より出火して富
吉町熊井町類焼に及べり

○十二月九日大川橋修復成り渡初あり○同月金雕工河野春明卒七十三歳龍眼寺小葬 ○
同初旬より湯島天滿宮社地にて薩摩吉右衛門名題操芝居を興行翌年の正月歌舞
○冬角力回向院境内にて興行の時箕島某の門人舞鶴駒吉といふ小兒土俵入とな
す當年八歳重さ廿五貫目駿河の産と云ふ○同十三日晝時澁谷官益町火事一町程
焼亡○同十五日明方松村町續武家地火事○淺草市其外に肉色の三平二満女假面
を商ふ事を始む又福耳のおたふく面となづけ耳の付たる三平二満の假面神田雉

紙江年表卷中
延庚申
三十八
戲自刺戲書屋

子町なる高矢郡次といふ人の工夫にて天保中神田社の年の市に售はせけるが一
旦すたれ又この頃所々に商ふを見たり○近頃坊間の壘地を乞丐人の輕趨となす
長さ丸太或の竹を以三本程すぢりへになし上の方を一ツに結付麻索を幾筋とな
く蜘蛛の巢の如くに引はへこの上を登りてつな渡りの技をなす又籠抜け其外色々
の曲をなし錢を乞ふもの所々へ出る○兩手人形となづけ衣笠梅壽髪判といふ者双
手二ツの偶人を持遣ふ所々の寄場といふに出で行れたり

萬延元年庚申 三月間同月朔日改元

○元日晴天去年十一月以來雨雪甚少し火災屢あり ○今年の大小去年に替らぎ三月の間あれど本月に
同く大の月なり同ト大小二年續きたるも珍ら一松本董齋が戯れに四七二十八で
五ざりま小と書たるが二年の便利となせり○正月三日夜子上刻上野真如院災○
同五日酉半刻妻戀下手代町千田某宅より火事四十五間餘焼る○同七日夜聖坂功
運寺門前火事四十七間餘焼る○同十日午刻下總松戸宿焼○同廿三日申刻靈巖橋
受負河岸釣竿屋より出火放火と云靈巖島町鹽町濱町四日市町新川太神宮菟島拍
戸永秀樓扇屋も焼込戊刻頃鎮る○同廿七日芝山内花岳院焼亡○春風邪行はる
○二月二日より五十日の間本所押上春慶寺普賢菩薩開帳○同三日水道橋門内講

長州邸
火事

武所迄開創あり築地講武所の軍艦操練所と成る○同四日曉八丁堀千川屋敷よ
り出火龜島町迄焼る○同六日明方本郷菊坂田町より出火二町餘焼亡○同十日曉
神田塗師町火事○二月より三月迄霖雨つゞきて繁盛の場淋々り下旬單櫻咲始
む○同十九日巳刻過日比谷松平大膳太夫殿屋敷火事○廿三日より六十日の間深
川永代寺に於て遠州豊田郡山東村光明山鎮守淨利支天火防光明大權現開帳○同
廿八日より六十日の間深川淨心寺に於て洛北實相院官南法圓山證光寺天拜朝日妙
見菩薩子安鬼子母神開帳○角力興行も雨天にて延び三月より興行す三月廿四日
やうやく霽ふ屬す

彦根侯
遇害

○三月朔日より六十日の間市谷八幡宮境内茶の木稻荷社開帳○同三日上巳佳節朝
より雪降積る外櫻田に於て恩劇の事あり他書に見えたればこゝに在るさす ○同十日より六十日
の間回向院に於て野州安蘇郡彦間村大正院根本山神本地薬師如來開帳故有て半
途ふして
閉帳 ○同十五日より六十日の間淺草寺觀世音開帳日毎に參詣群集せり奥山に肥
後松本
喜三郎が細工おて三度目の活人形見せもの出る四十八癖と号し男女四十八種の偶
人を見する喜怒哀樂の情態をうつしなから生る人に向ふがごとし招きお龍宮
玉取女の形なり又同所ふ秋山平十郎が作男女相性の ○錢瓶橋にあらたに水門を建
偶人竹田縫之介がからくり人形の見せ物も出たり ○去年夏異國貿易の事免許あり武州久
らる○同月畫人高島千春卒八十一歳薨髪
して融齋鼎湖

開帳

長岐郡芒新田横濱村に厥場と定給ひ一か今年春の半より全所戸部の山を崩して通路を開き此土を以て田圃を平均し増徳院の上の山六万餘坪の所交遮の老樹を伐膠藁の荒草と芟て山上を平らかに一又所々に橋梁を架し亞國ミニストルの旅館を營れ夫より次第に西洋諸州の旅館に及ぼし大厦峻宇覺を排ね異域の諸州よりいたえぎ碇泊して貿易を專とせり又神祠佛院の破壊を修補せしめあらたに市塵娼廓等とも闢しめられしかば東京近郊へ更なり他境遠陬の販夫芻蕘もこゝに交加して活業を營み貨殖せるもの少からず巨万の商家の檐を列ね妓家の各高樓を設け又邸舍拍戸劇場の類に至る迄とも瞻ひ人烟輳列一乃船常ふ來往し舳艦海岸に連接して疇昔の寂寥にひさかえ其繁鬧耳目を駭し東關隨一の濠といなれりける抑此地の近郊の勝地にして海岸にさし出遠く房總の翠巒近く本牧の斷岸神奈川の臺權現山其他の眺望一瞬の内に入り尤幽邃の所にして東海の驛路を去る事僅に一里餘といへとも海路を阻るが故韻士墨客といへとも繹る事稀なりしり今年開港ありしより通路の便利と得加之鐵道氣車の要器を設られしを以て良賤こゝを輻輳し四時の遊觀絶る事なく連日抑留して歸を忘れ驛路來往の旅客も俱に躊躇せるもの尠からざれば江府の男女此勝槩を視ざるを以て耻といせ

此所昔より辨才天社あり芒の弁天又洲乾弁天ともいへり致景の所なり

女人登 嶽 金銀吹 換

○四月朔日より八月晦日迄富士山へ男女登る事をゆるさる諸國より參詣夥し孝安天皇御宇九十二年庚申開闢より三十七日目の庚申にして二千二百余年ふ及ぶと云ふ ○大判吹直新金通用せしめらる

○五月角答村十二社權現境内に花菖蒲を栽る遊觀多し一兩年ふし ○同十五日より六十日の間回向院に於て京都嵯峨清凉寺釋迦如來開帳七月の風雨等ふて遅く不其後傳通院大黒堂増上寺等ふて開帳あり十二月にいたりて歸國あり回向院開帳の間境内見せ物多く出し内傀儡師の大人形の坐像にて高さ三丈余なり腹の中より座敷をせり出し又淨るりの出語をなす又松本喜三郎作怪談其外の活人形も出たり ○淺草寺奥山に箒を以て十餘間の虎を作りて見せ物とす ○十五日より六十日の間深川永代寺に於て甲州八代郡左右口

村圓樂寺役行者前鬼後鬼の像開帳 ○同廿五日ホルトガルの使船始て着し高輪東禪寺に宿す ○同廿六日神田明神社一の鳥居建小田原町の魚店より寄附す弘化三年類火の後再營する所なり七月朔日上棟の式ありと ○同廿七日より駒込富士内拜あり

○六月十五日山王權現祭禮當年より舊例の如く車樂附祭伎踊遷物屋獨樂廻し等出て修城内へ入る異國人辰の口修作事方定小屋に於て見物をゆるさる ○同晦日本所豎川通の數万の白蝶羣り來り水面を浮び或は舞ふあたりも雪の如しその内五ツ目の邊尤甚しかりとぞ

ホルト 來

武江年表卷十一 我目升我書屋

○七月十六日フロエスの使船始て来り品川へ着すロイツ國より出船せりと ○同廿二日より雨廿四日朝より北大風雨終日止まじ家屋を損じ塀牆を倒し樹木を折り海上に覆破漂蕩の船多かりいと聞ゆ夜ふ入て鎮る所よに出水あり回向院壁にて開帳ありしが境内見せもの小屋潰れたるが多し ○同月の末淺草寺二王門の傍に見せ物出る變死人或幽霊等の作りものなり ○同月下旬より兩國橋西詰ふて豹ヤウカキを見せ物とす見物群集す關人持渡る所といふ身丈四尺餘もあるべし尾ハ三尺生餌を食す

○八月十五夜月清光一點の雲なし諸人月宴を催し河邊殊に賑へり ○秋の頃より米穀菜蔬水油薪炭其餘諸物の價貴踊せり ○申年の頃より脱藩浪士の類にや官吏又の商家其餘おのれが衞む輩の行跡或は異艦掃斥の趣意横濱貿易の淑慝等自己の憶見をもて穿鑿の甚しきをもちへりみむ政務の重事をさへ憚らむ書記して武家の門戸市井の戸扉に貼するもの屢これあり次第に増長して猥褻の作文をなす戌亥兩年殊に甚し 人心を狂惑せしむる物もあるべしその内片言隻辭を演て笑柄となれるもありとろ ○同廿七日曇南風烈しく扇フキが暮六時猿若町壹丁目勘三郎が芝居の後ろ茶屋奴利屋榮助宅より失火して二丁目三丁目もとも三座の芝居焼亡す東

裏通の東側 馬道町聖天横町齋頭門前常音門前山川町鳥越壹丁目より四丁目迄遍照院西方寺正法寺山谷拍戸八百等類焼し廿八日曉に至て鎮る長七町四十間餘幅平均して壹町十五間程なり一丁目の芝居の事果て後なり二丁目三丁目の芝居の興行しうべ諸人の困苦いふ計りなしとぞ 聖天町山谷町淺草寺地中院織田侯トヤトヤ等へ焼込熱田社ハ別條なし

○九月廿二日より廿八日迄親鸞聖人六百年御忌引上法會執行東西本願寺參詣多し末寺に於ても各法事修行あり ○同廿八日亥刻過吉原江戸町二丁目娼家紀の字屋六太郎が屋上より火起り過みあら壹廓悉く焼亡す餘烟田町壹丁目二丁目に及せり長四町半餘幅壹町四十間程なり僑居カキヤと免されむらく本所松井町壹丁目深川仲町山本町黒江町根津門前の三ヶ所なり各惣門を建設て其一方より出入す

○十一月深川海邊新田に鑄錢座を建らる ○同月織田侯より羽州天童陣屋前城山又鶴山より出し白雉一羽と幕府へ獻せらる ○同月より深川三十三間堂修復始る卯年大地震に罹りたる後なり ○同十八日西本願寺風破の後今年本堂普請成就して遷佛あり其日の壯麗目を驚けしけるとぞ諸人參詣多し ○三座芝居顔見せ狂言なり ○十二月五日夜亞米利加のロウスケン麻布善福寺より赤羽の接遇所へ至り歸路

武江年表卷十一 萬延庚申 四十一

武州金春寺... 我目刊我書屋

武所へ移さる○三月淺草御藏前床見せ再興○同十二日より六十日の間牛込横寺町圓福寺にて駿州岩本實相寺祖師開帳○同十七日夕八時頃雷雨又黄昏雷鳴ありて所へ墮る聞く所ばかり凡○同月本所回向院青山鳳閣寺境内にて百日芝居興行あり青山邊へめぐらし

○四月三日曉丑刻四谷傳馬町續武家地より出火して麴町十三丁目竹町四谷伊賀町坂町御先手其外組屋敷市谷本村へ焼出尾州侯長屋へ焼込明方に鎮る長四町四十四間餘幅平均二町十間程なり○同五日夜予下刻駿河臺鈴木町火事

浪士襲英館

○五月二日明方牛込牡丹屋敷火事神樂坂の中程迄焼たり○同三日曉富澤町火事○同廿二日夜より亥の方に異星現る光芒ツツキ堅に延て長し稲星といふ其後曇りて○同廿八日夜中高繩東禪寺英吉利人旅宿へ浪士大勢切入て警固の士と鬪闘オウツヤに及び双方疵とかうむる○今年異國人旅宿へ麻布善福寺亞米利加 赤羽接遇所フルエス 高繩東禪寺芝西應寺英吉利 三田大増寺濟海寺月岬正覺寺佛蘭西 伊皿子長應寺河蘭陀 三田大中寺魯西亞等なり○同月炎旱數旬をわたり六月下旬やうやく雨降る○此頃傷寒又熱病眼病等多し

所持大船

○六月百姓町人大船所持する事をゆるさる○同十五日より十七日迄入谷長松寺にて朝顔の會あり七月又淺草寺奥山にもこれあり

○七月朔日夜青山善光寺本堂風もなきに潰れたり其前ふ震動ありし故本尊へ他へ移し置て怪我人等も無しとぞ

○同夜虎御門内火事○當秋五穀豐饒にして近年稀の事といふ

○八月幸橋御門外町地に御醫師三上氏拜領町屋草創成春家作なりて○同廿五日夜予刻地震○同日より牛込若松町正光院内湯島天満宮内百日芝居興行○淺草奥山に於て異獸オウマを見する犬の大きにて角あり黒毛地に垂る名を「ナヤウエイ」といふ蠻語にあらむとぞ○同月頃より街頭に犬多く死す又馬の斃たるも多し

○九月芝永井町續御靈屋御掃除屋敷の内金地院拜領町屋と成る御掃除屋敷の幸橋外明地に於て代地として給れり○團子坂藪下邊翁の造物の忠臣藏狂言の人形なり○同十五日神田明神祭禮恒例の通神輿車樂附祭等出す十六日の禮參雨ふり

○十月二日去ル卯年大地震は横死の輩七回忌に付諸寺院施餓鬼法事あり○同五日夜より曉迄大風雨家屋を傷損す○同十日湯島天満宮祭禮産子町へ車樂シキモノ等出て九日ふの群集せしが當日雨天にて渡らむ○同九日夜武州横濱港出火十日の晝頃シキモノに及ぶ町屋の焼け異國人の商館へ殘る此後横濱港度々火あり一々不記日今年

も根津千太木藪下の邊菊の造物多く出来て日々遊觀の人多し巢鴨染井の造菊の前卷にいへる如く文化九年の秋より始り江城の尊卑日毎に群行してこれを賞ける頃先考お誘れてこのわたり見めぐらひも明治戊寅の年に及てはや六十七年の昔となりぬ夫より後も大かた年々にこれを造りて此里の名物となりぬ然るに造り菊ハ鄙俗のものとして見ざる人あれど此時節丹楓の佳境を繹るの外に花なき頃にして東京の中央より道を阻る事も遠からされば此邊に徘徊し團子坂あ名を得し河漏麩お一樽を傾けはるりの野徑を眺望し或ハこの邊の拍戸に醉を催し衆人とも連牆の藝花園に入庭中をなぐめ菊の花檀盆種の草木多かるを賞し一日逍遙して夕照の斜なるを惜む輩も鮮くらぎ眞にこれ仲秋の一樂事なり

○秋の頃異國より渡りし虎一匹同十四日より廻町十三丁目裏續き福聚院境内にて見せ物とす大き五尺餘あり前の豹みくらふれバ甚巨大なり見物来る毎に帷をうり上げて見するなり其後橋場におゐて見せけるなり

○同廿八日築地本願寺報恩講引上法會執行當十一月さし台事あり故當月お行へり

○十一月朔日酉の祭參終日終夜の大雨にて詣人少し二の酉ハ御祝儀お付無之三の酉參詣多し

○十二月七日夕七半時芝六軒町續薩州侯御屋敷より出火北の方金杉通西側迄焼る長五町餘幅平均して二町程なり○同十二日夜五時過京橋與作屋敷より出火水谷

町金六町白魚やーき銀座壹丁目迄焼る○同夜四時頃内藤新宿上町出火旅舎焼亡す○冬雨少く雪更に降らざ

武江年表卷十

我
自
刊
我
書
屋

武江年表卷十畢



